

京丹波町

高齢者福祉計画・介護保険事業計画

策定に係るアンケート調査結果

概要

令和2年3月

京丹波町

目 次

第1章 調査の目的と実施概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 実施概要.....	1
3. 調査結果の見方.....	1
第2章 調査結果	2
I-I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	2
調査対象者の属性.....	2
問1. 家族や生活状況について.....	4
問2. 運動外出について.....	6
問3. 食べることについて.....	8
問4. 毎日の生活について.....	8
問5. 認知症に係る相談窓口の把握について.....	9
問6. 地域での活動について.....	10
問7. たすけあいについて.....	11
問8. 健康について.....	12
問9. 京丹波町の高齢者福祉施策について.....	14
I-II 生活機能評価.....	15
1. 生活機能評価手法の概要.....	15
(1) 生活機能.....	15
(2) 老研式活動能力指標.....	16
2. 評価結果.....	18
II 在宅介護実態調査.....	22
A票. 調査対象者について.....	22
B票. 主な介護者の方について.....	28

第1章 調査の目的と実施概要

1. 調査の目的

本調査は、令和3年度～5年度までを計画期間とする「京丹波町高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画」の策定に当たり、町内の高齢者等の生活実態や健康状態等を把握し、これを計画策定の基礎資料とするために実施したものです。

2. 実施概要

(1) 調査の対象者と配布数

調査の対象者と配布数について、整理すると次のとおりです。

調査名	対象者	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	65歳以上の 要介護認定者以外	1,000	725	72.5%
在宅介護実態調査	在宅の要介護認定者	503	276	54.9%

(2) 調査方法

郵送による配布・回収

(3) 抽出基準日

令和元年12月24日（火）

(4) 調査期間

令和2年1月10日（金）～1月24日（金）

3. 調査結果の見方

◇タイトル右には、設問に応じ、SA（単数回答）、MA（複数回答）、FA（自由記述）を示しています。

◇各設問のカテゴリー（選択肢）等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。

◇各設問番号は、実際のアンケート調査の番号を用いており、生活機能評価（p48～）の対象設問等のため、設問順になっていない場合があります。

◇集計結果のグラフのnの値は、当該設問の回答者数を示しています。

◇集計結果のグラフ・表における“無回答”には、当該設問への無回答の他、回答規則違反（例えば、SAの設問における複数回答等）の件数（票数）が含まれます。

◇集計結果のグラフ・表における比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して算出・表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。

◇表における 表示はその種別の第一位の項目（無回答を除く）を示しています。

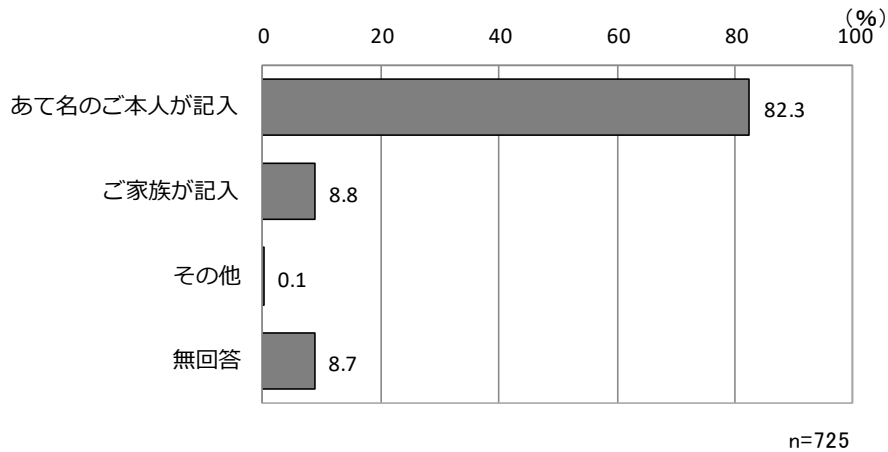
第2章 調査結果

1-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

※生活機能評価に関する設問は、I-IIの生活機能評価結果にまとめています。

調査票の記入者

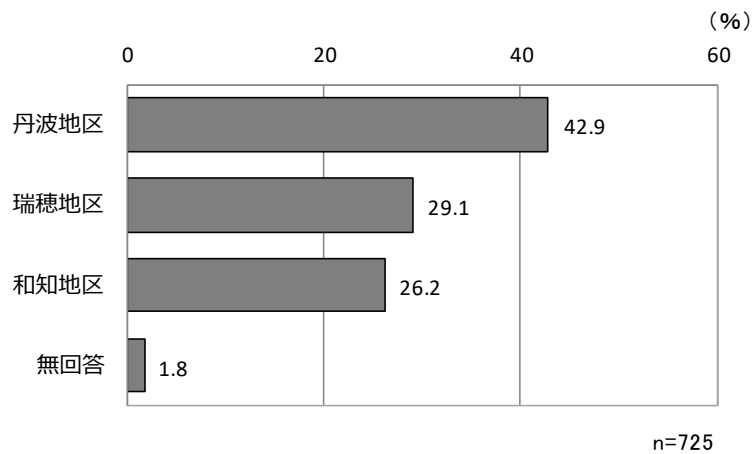
【SA】



調査対象者の属性

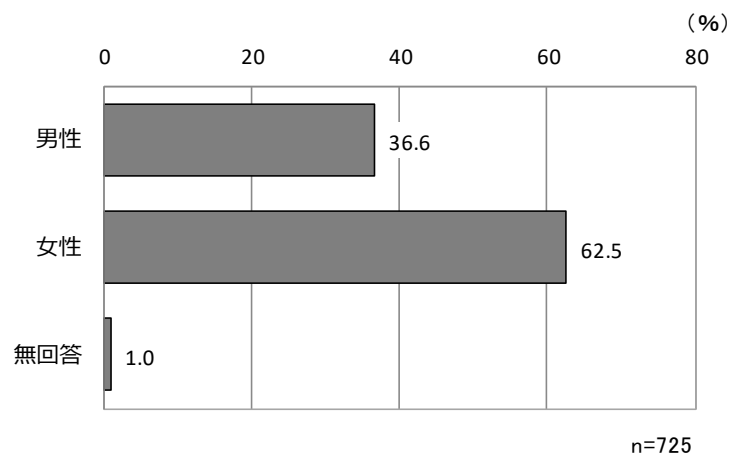
Q1. 居住地区

【SA】



Q2. 性別

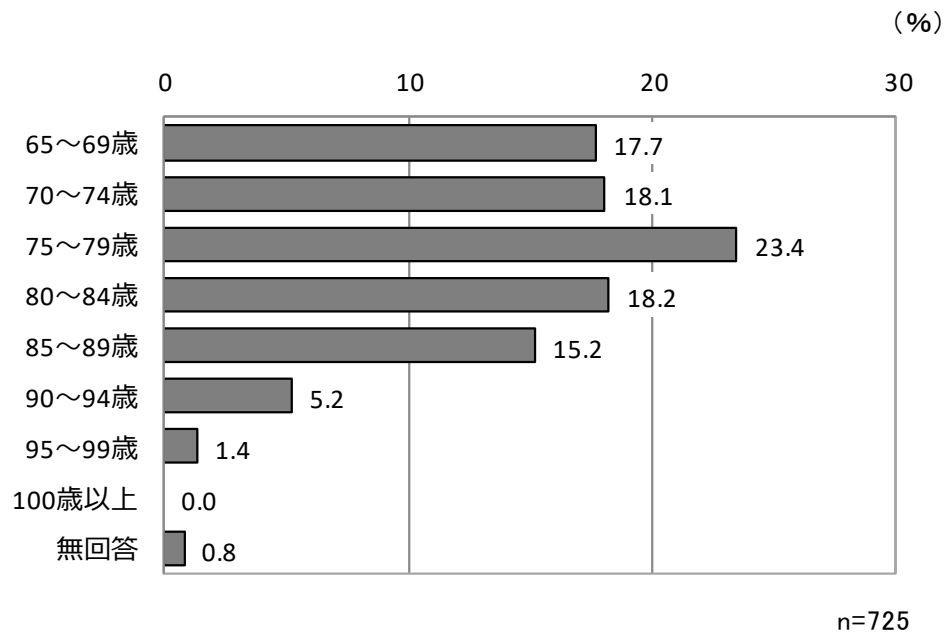
【SA】



Q3. 年齢

【SA】

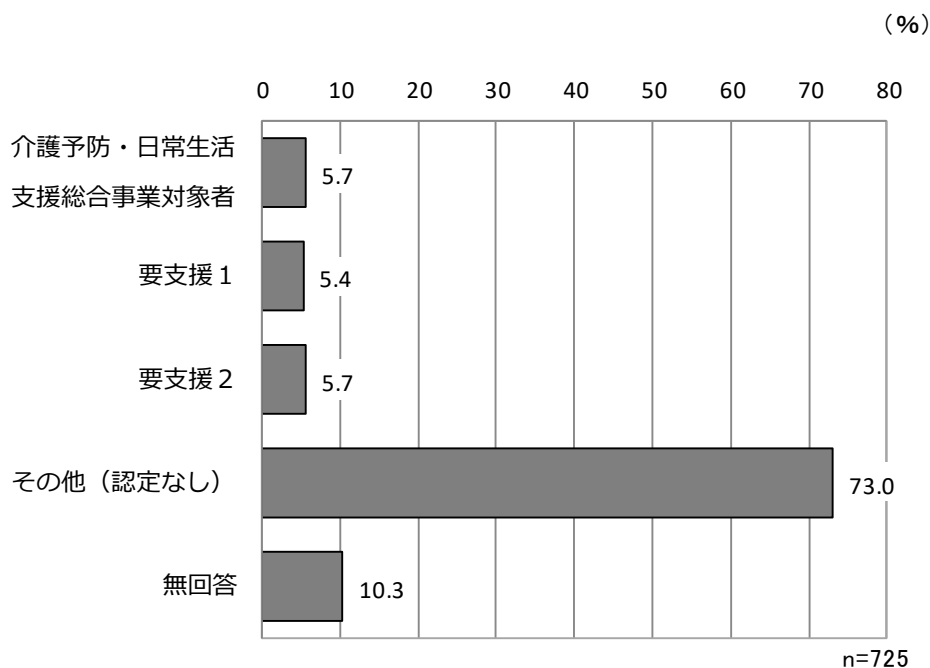
○前期高齢者（65～74歳）は35.8%、後期高齢者（75歳以上）は63.4%となっています。



Q4. 要介護状態区分

【SA】

○「その他（認定なし）」が73.0%、「介護予防・日常生活支援総合事業対象者」が5.7%、「要支援2」が5.7%の順となっています。

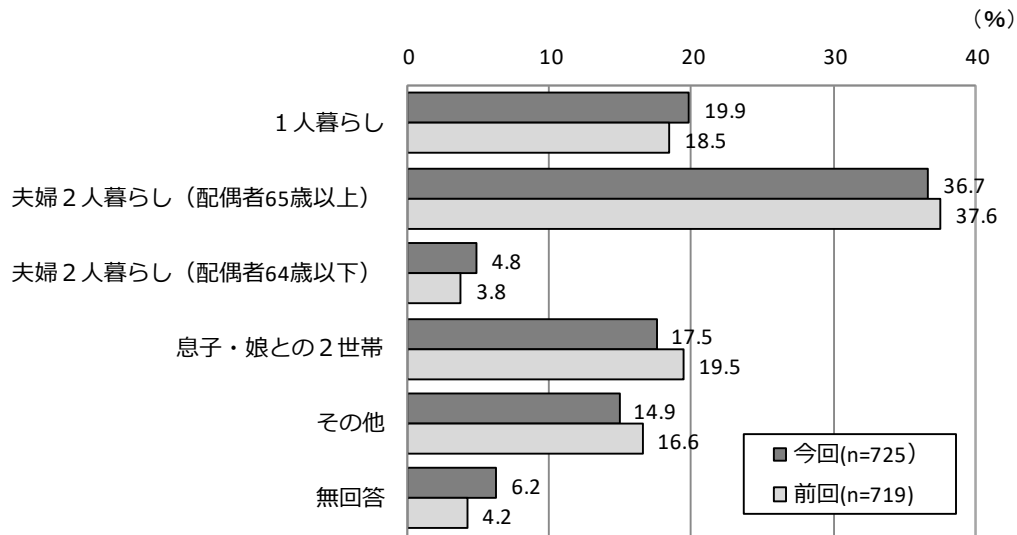


問1. 家族や生活状況について

Q1. 家族構成

【SA】

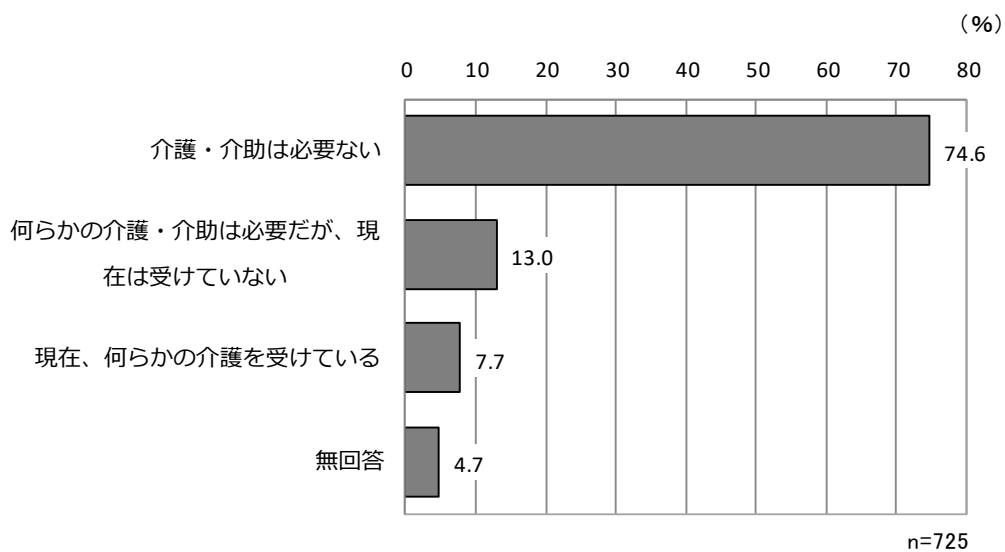
○「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が36.7%で最も高く、次いで「1人暮らし」が19.9%、「息子・娘との2世帯」が17.5%の順となっています。



Q2. 介護・介助を必要としているか

【SA】

○「介護・介助は必要ない」が74.6%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が13.0%、「現在、何らかの介護を受けている」が7.7%となっています。

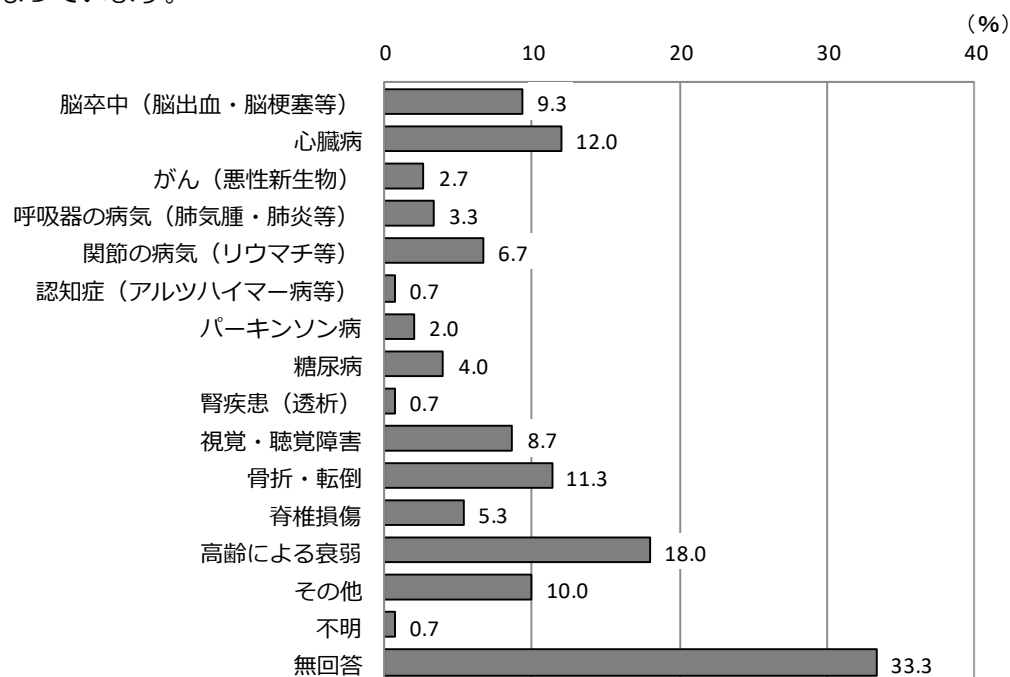


Q2-1. 介護・介助が必要になった原因

【MA】

(Q2において「介護・介助は必要ない」以外を選択した方限定)

○「高齢による衰弱」が18.0%で最も高く、次いで「心臓病」が12.0%、「骨折・転倒」が11.3%の順となっています。



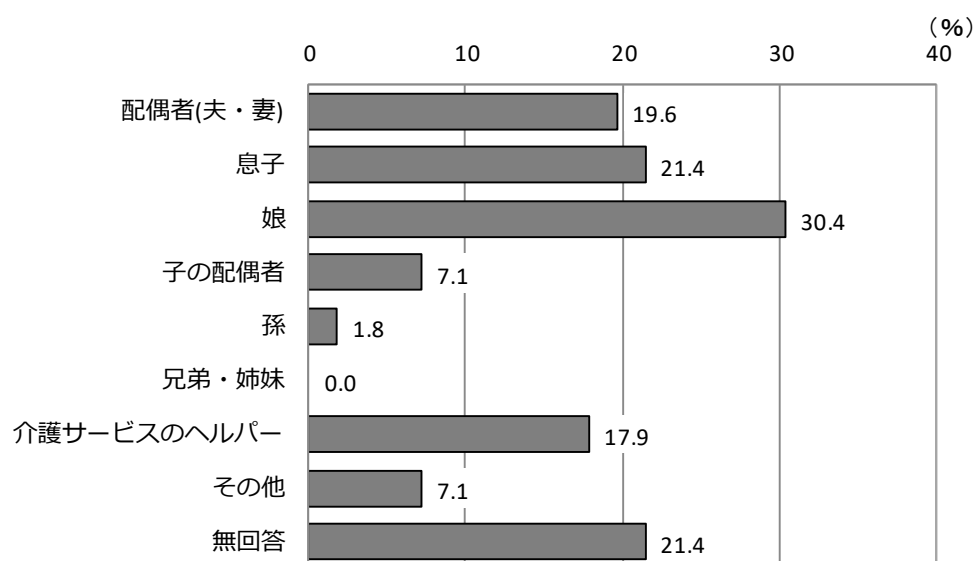
n=150

Q2-2. 主な介護・介助者

【MA】

(Q2において「現在、何らかの介護を受けている」を選択した方限定)

○「娘」が30.4%で最も高く、次いで「息子」が21.4%、「配偶者(夫・妻)」が19.6%の順となっています。

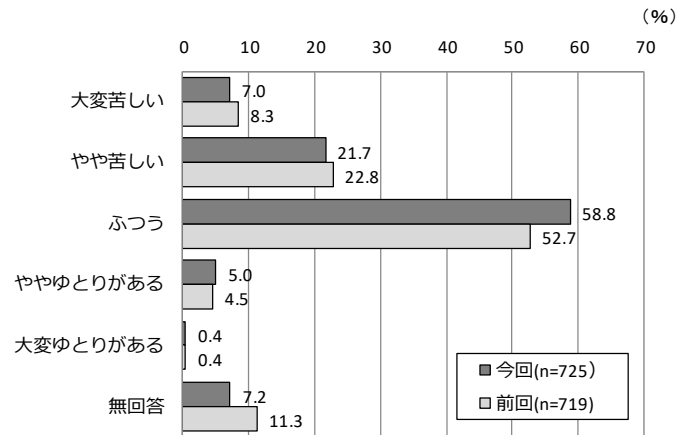


n=56

Q3. 現在の暮らしの経済的状況

【SA】

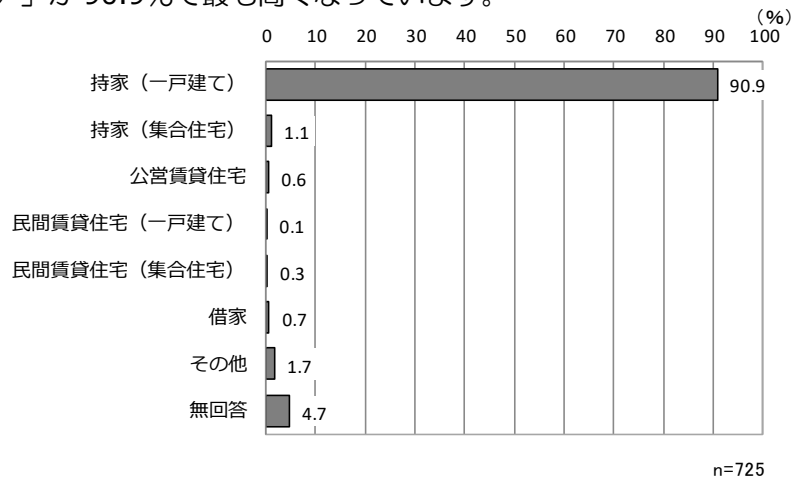
○「ふつう」が58.8%で最も高くなっています。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』については28.7%で、前回調査に比べ2.4ポイント減少しています。



Q4. 住まいの状況

【SA】

○「持家（一戸建て）」が90.9%で最も高くなっています。

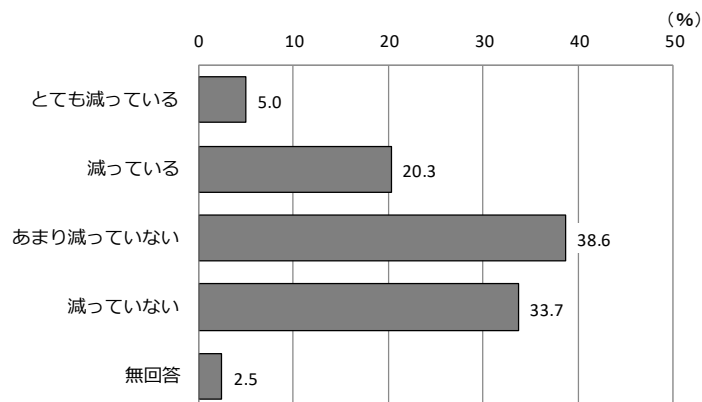


問2. 運動外出について

Q7. 昨年と比べた外出回数

【SA】

○「あまり減っていない」と「減っていない」を合わせた『減っていない』が72.3%、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が25.3%となっています。

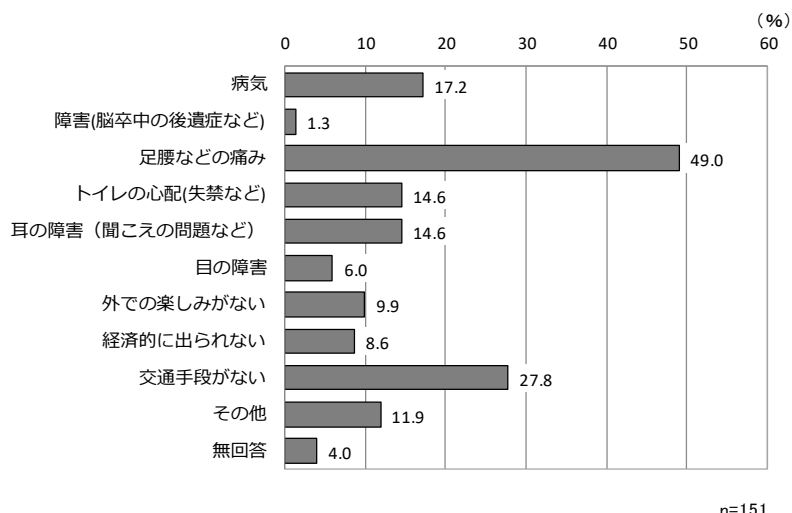


Q8-1. 外出を控えている理由

【MA】

(Q8で「はい(外出を控えている)」を選択した方限定)

○「足腰などの痛み」が49.0%で最も高く、次いで「交通手段がない」が27.8%、「病気」が17.2%の順となっています。

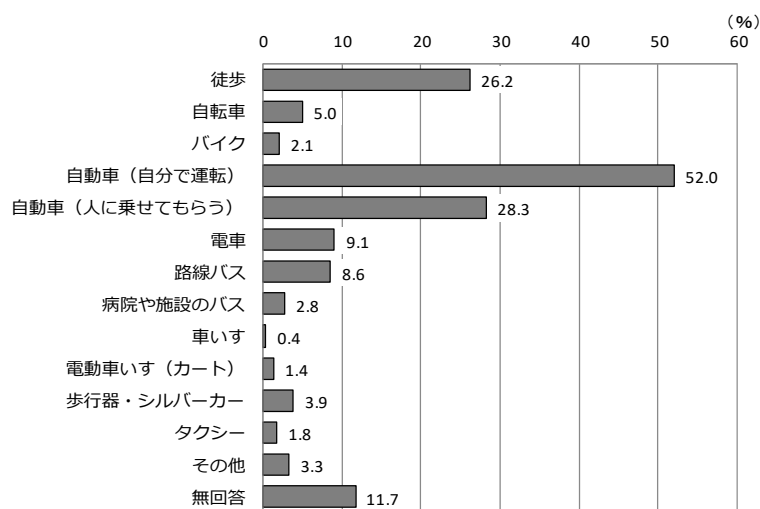


n=151

Q8-2. 外出する際の移動手段

【MA】

○「自動車(自分で運転)」が52.0%、「自動車(人に乗せてもらう)」が28.3%、「徒歩」が26.2%の順となっています。



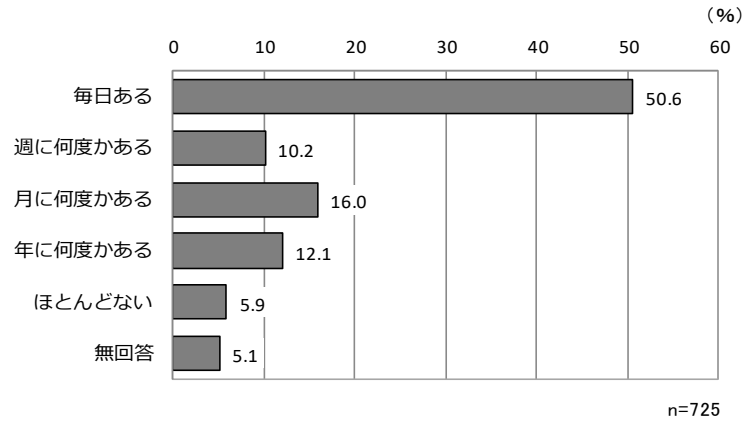
n=725

問3. 食べることについて

Q8. 誰かと食事をともにする機会はあるか

【SA】

○「毎日ある」が50.6%、「月に何度かある」が16.0%、「年に何度かある」が12.1%の順となっています。

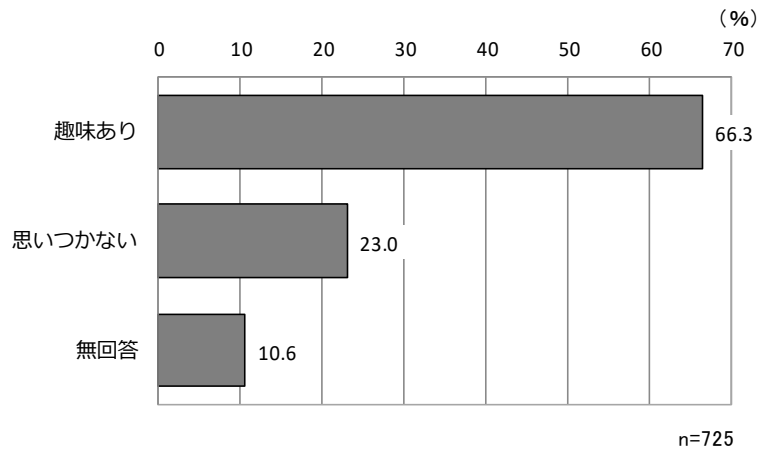


問4. 毎日の生活について

Q17. 趣味はあるか

【SA】

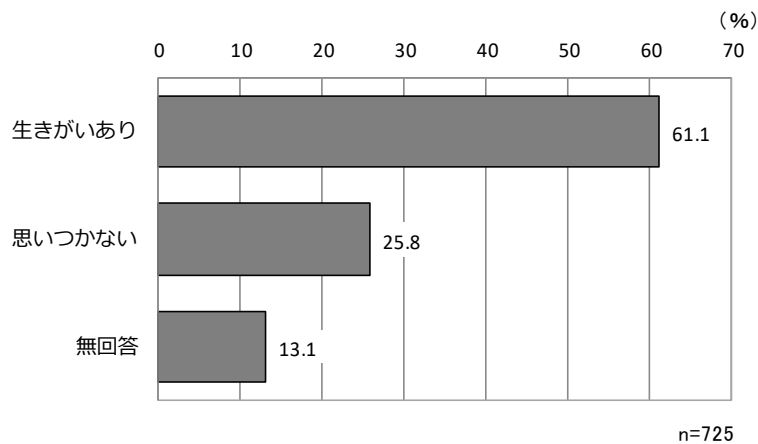
○「趣味あり」が66.3%、「思いつかない」が23.0%となっています。



Q18. 生きがいはあるか

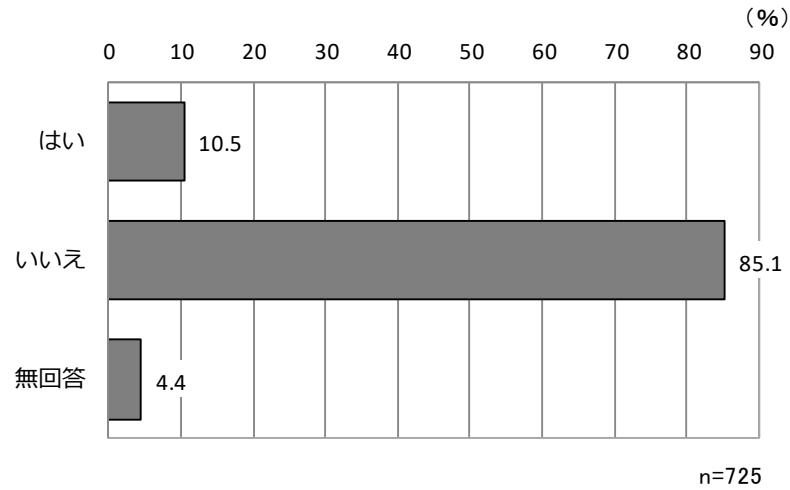
【SA】

○「生きがいあり」が61.1%、「思いつかない」が25.8%となっています。

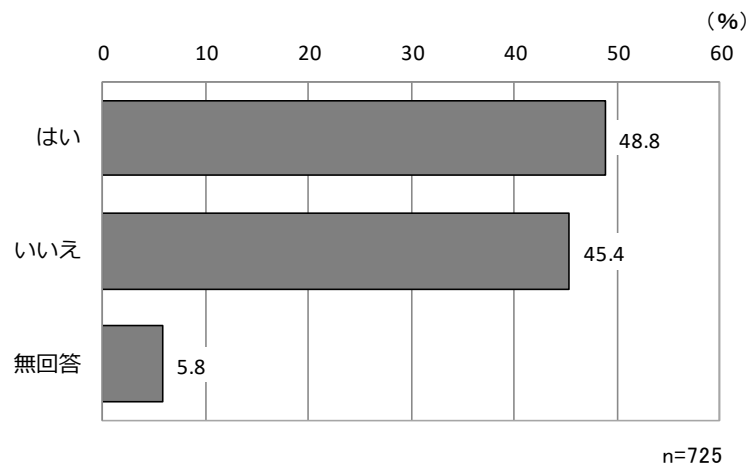


問5. 認知症に係る相談窓口の把握について**Q1. 認知症の症状又は家族に認知症の人の有無****【SA】**

○「はい」は10.5%、「いいえ」は85.1%となっています。

**Q2. 認知症の相談窓口を知っているか**

○「はい」は48.8%、「いいえ」は45.4%となっています。



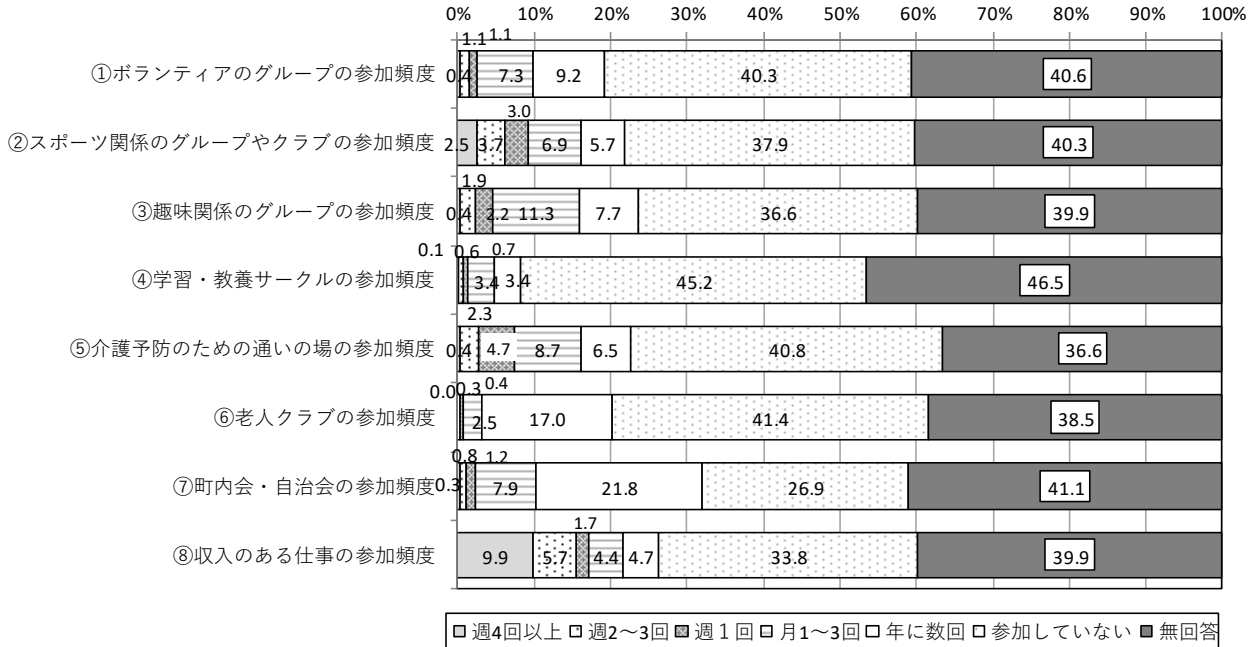
1-1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

問6. 地域での活動について

Q1. 会やグループの参加頻度

【SA】

○「週4回以上」「週2～3回」「週1回」を合わせた『週1回以上』と比較すると、“⑧収入のある仕事”は17.3%となっていますが、他の活動についてはすべて10%以下となっています。

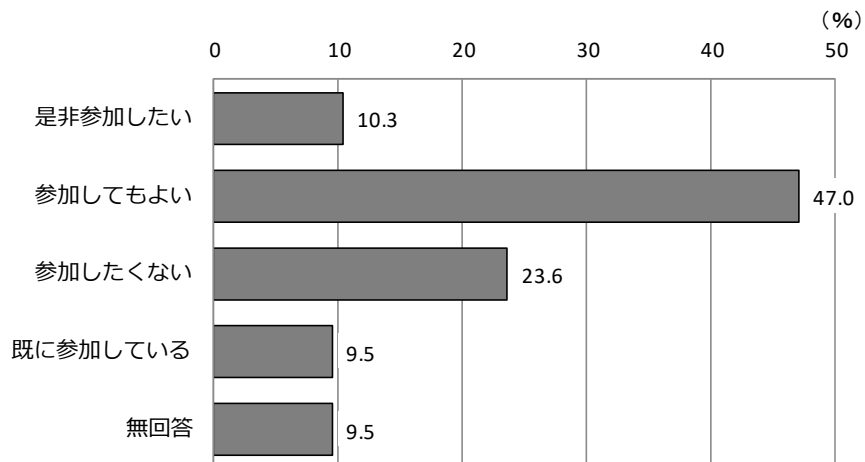


n=725

Q2. 地域活動に参加者として参加したいか

【SA】

○「参加してもよい」が47.0%、「参加したくない」が23.6%、「是非参加したい」が10.3%となっています。

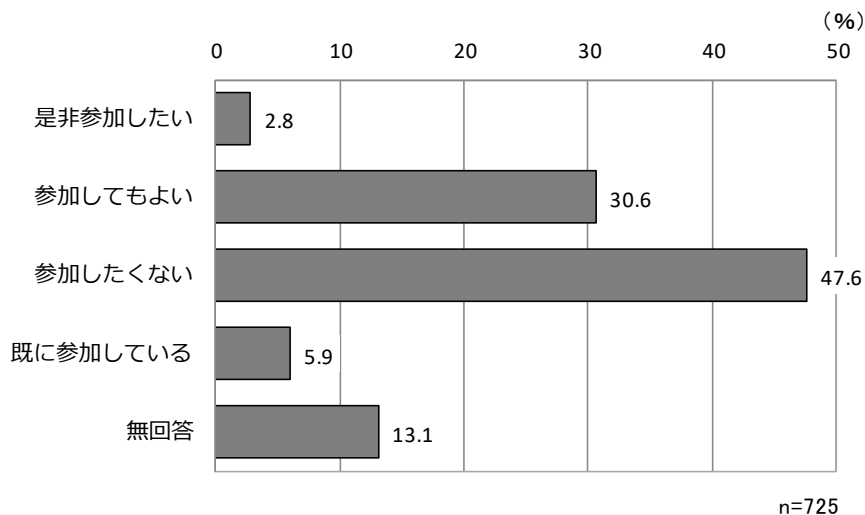


n=725

Q3. 地域活動に企画・運営として参加したいか

【SA】

○「参加したくない」が47.6%で最も高く、次いで「参加してもよい」が30.6%、「既に参加している」が5.9%となっています。

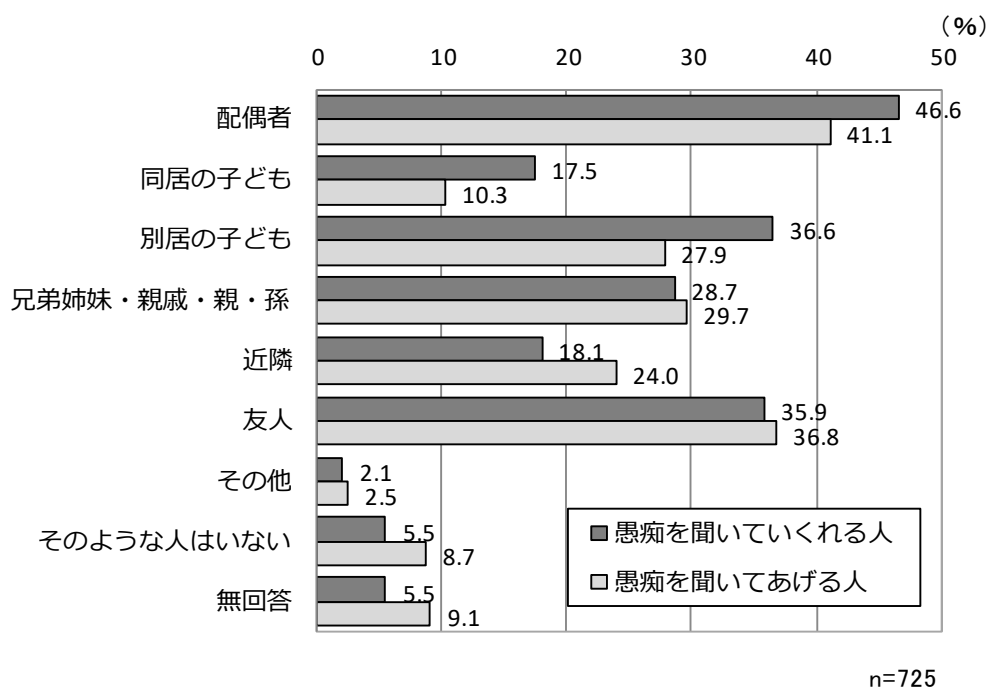


問7. たすけあいについて

Q1、2. 心配事や愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人

【MA】

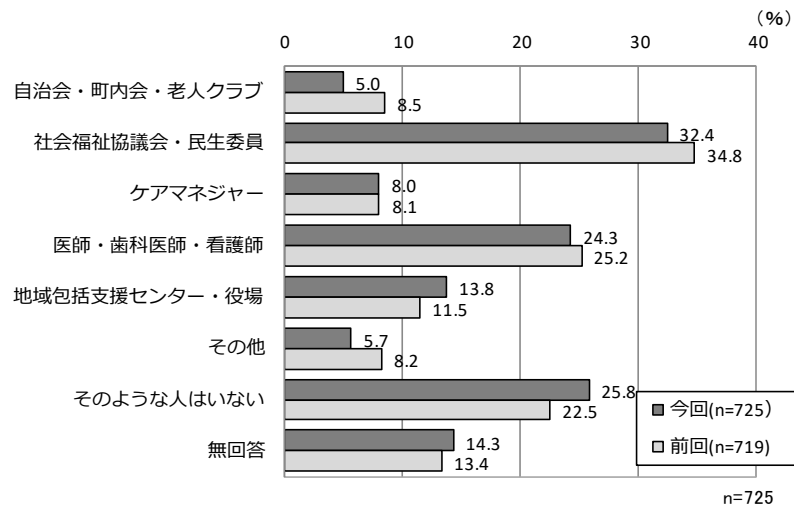
○心配事や愚痴を聞いてくれる人、心配事や愚痴を聞いてあげる人は、どちらも「配偶者」が最も高くなっています。



Q5. 家族や友人・知人以外の相談相手

【MA】

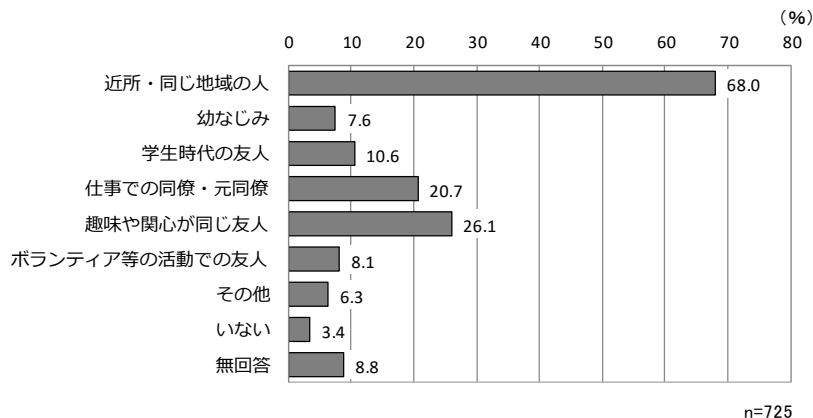
○「社会福祉協議会・民生委員」が32.4%で最も高く、次いで「そのような人はいない」が25.8%、「医師・歯科医師・看護師」が24.3%となっています。



Q8. よく会う友人・知人

【MA】

○よく会う友人・知人は、「近所・同じ地域の人」が68.0%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が26.1%、「仕事での同僚・元同僚」が20.7%の順となっています。

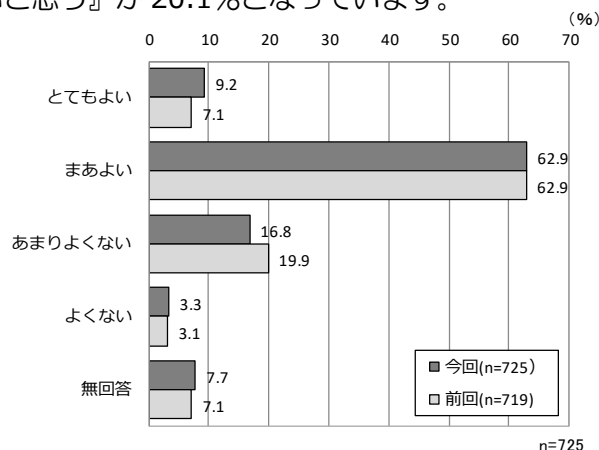


問8. 健康について

Q1. 主観的健康観

【SA】

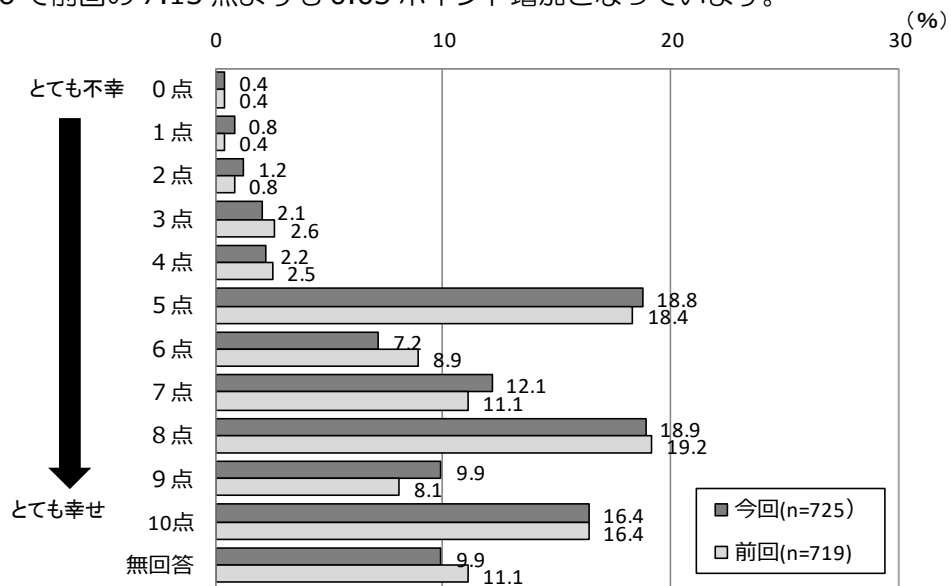
○「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『健康だと思う』が72.1%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『健康でないと思う』が20.1%となっています。



Q2. 主観的幸福観

【SA】

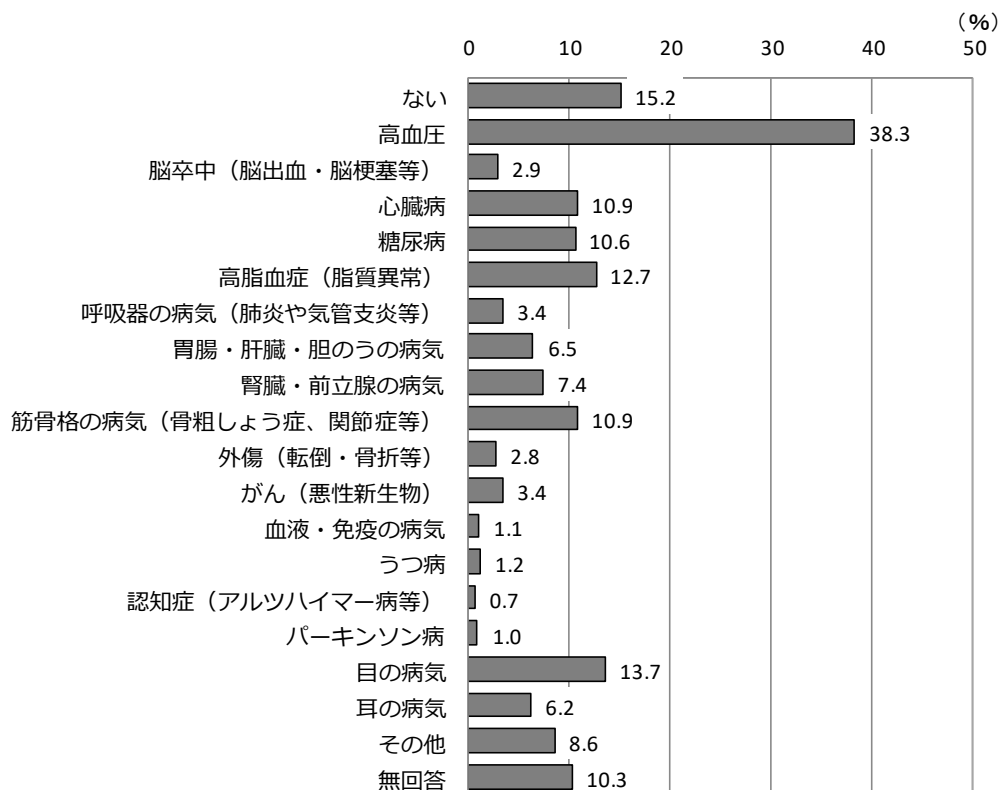
○「8点」が18.9%で最も高く、次いで「5点」が18.8%、「10点」が16.4%の順となっており、平均点は7.16で前回の7.13点よりも0.03ポイント増加となっています。



Q7. 治療中、または後遺症のある病気

【MA】

○「高血圧」が38.3%で最も高く、次いで「ない」が15.2%、「目の病気」が13.7%の順となっています。



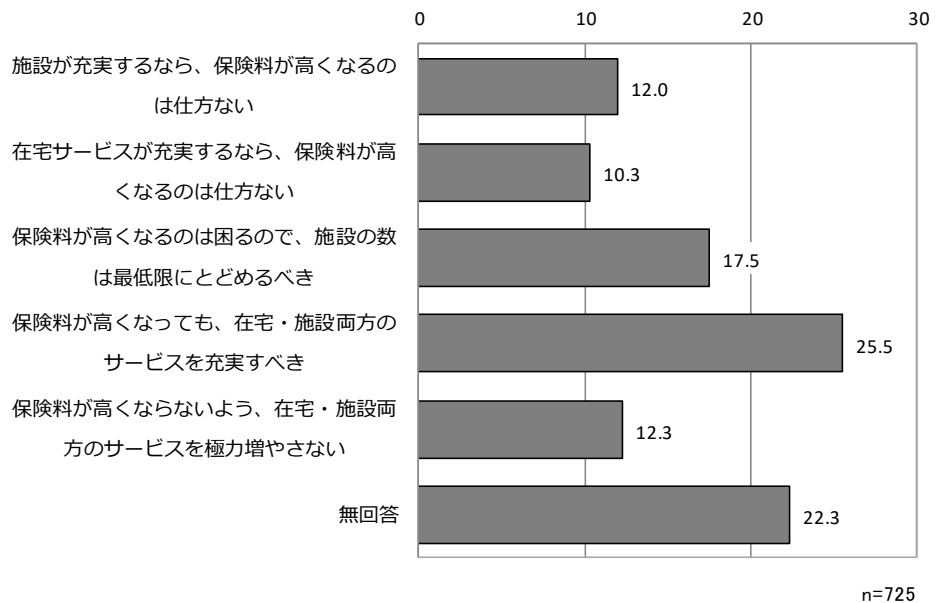
n=725

問9. 京丹波町の高齢者福祉施策について

Q1. 介護保険サービスと介護保険料のバランス

【SA】

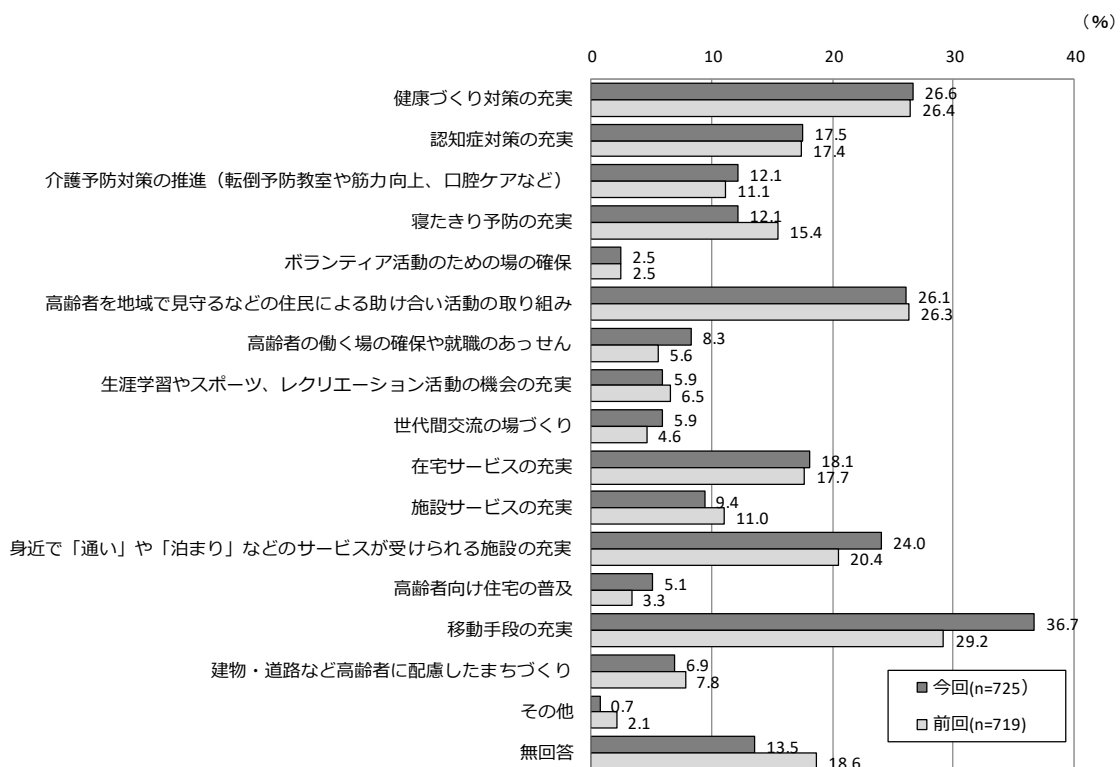
○「保険料が高くなっても、在宅・施設両方のサービスを充実すべき」が25.5%で最も高く、次いで「保険料が高くなるのは困るので、施設の数最低限にとどめるべき」が17.5%、「施設が充実するなら、保険料が高くなるのは仕方ない」が12.0%の順となっています。



Q2. 高齢者福祉で拡充が重要な施策

【MA】

○「移動手段の充実」が36.7%で最も高く、次いで「健康づくり対策の充実」が26.6%、「高齢者を地域で見守るなどの住民による助け合い活動の取り組み」が26.1%の順となっています。



I-II 生活機能評価

1. 生活機能評価手法の概要

(1)生活機能

①運動器機能低下：次の設問で3項目以上、該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q1	階段	「3. できない」
問2. Q2	椅子からの立ち上がり	「3. できない」
問2. Q3	15分歩行	「3. できない」
問2. Q4	転倒経験	「1. 何度もある」「2. 1度ある」
問2. Q5	転倒不安	「1. とても不安である」「2. やや不安である」

②転倒リスク：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q4	転倒経験	「1. 何度もある」「2. 1度ある」

③閉じこもり傾向：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q6	週1回の外出	「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」

④低栄養：次の設問で2問ともに該当する場合

問番号	項目	選択肢
問3. Q1	身長・体重	() cm () kg BMI (体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})が18.5以下の場合
問3. Q7	体重減	「1. はい」

⑤口腔機能低下：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問3. Q2	咀嚼	「1. はい」
問3. Q3	お茶や汁物でむせる	「1. はい」
問3. Q4	口の渇き	「1. はい」

⑥認知機能低下：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問4. Q1	物忘れ	「1. はい」

I-II 生活機能評価

⑦うつ傾向：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問7. Q3	ゆううつな気持ち	「1. はい」
問7. Q4	心から楽しめない	「1. はい」

(2)老研式活動能力指標

①手段的自立度（IADL）¹：以下の5設問の合計点数で評価

・5点：高い ・4点：やや低い ・0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q4	外出	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q5	買物	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q6	食事用意	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q7	支払い	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」
問4. Q8	預貯金	1	「1. できるししている」または「2. できるけどしていない」
		0	「3. できない」

②知的能動性：以下の4設問の合計点数で評価

・4点：高い ・0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q9	年金書類	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q10	新聞	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q11	本や雑誌	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q12	健康への関心	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

¹ IADL：買物・電話・外出等、高い自立した日常生活をおくる能力。手段的日常生活動作能力。

③社会的役割：以下の4項目の合計点数で評価

・4点：高い	・0～3点：低い
--------	----------

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q13	友人の家訪問	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q14	友人からの相談	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q15	病人の見舞い	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」
問4. Q16	若い人への 話しかけ	1	「1. はい」
		0	「2. いいえ」

2. 評価結果

1. 生活機能

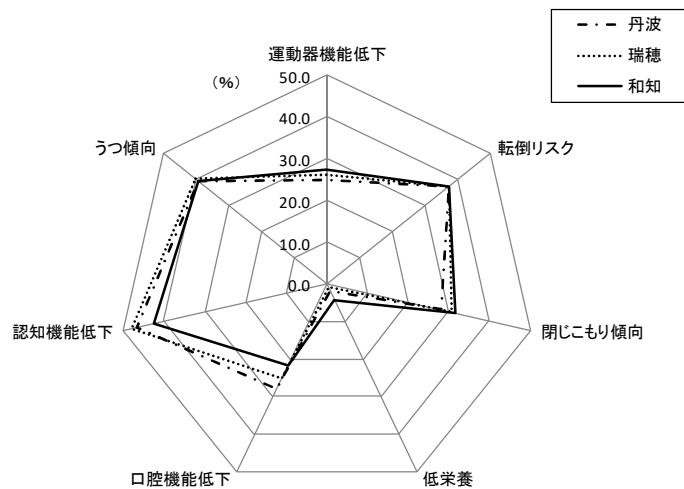
○生活機能の評価項目ごとの該当者（リスク者）の割合は、「認知機能低下」が全地区で高くなっています。地区別にみると、「丹波」で「口腔機能低下」、「瑞穂」で「うつ傾向」「認知機能低下」、「和知」で「運動機能低下」「閉じこもり傾向」「低栄養」の該当者の割合が高くなっています。

○要介護状態区分別にみると、「介護予防・日常生活支援総合事業対象者」は「認知機能低下」、「要支援1」は「うつ傾向」、「要支援2」は「運動機能低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」の該当者の割合が高くなっています。

○年齢別にみると、ほとんどの項目で、年齢が高くなるほど、割合が高くなっています。

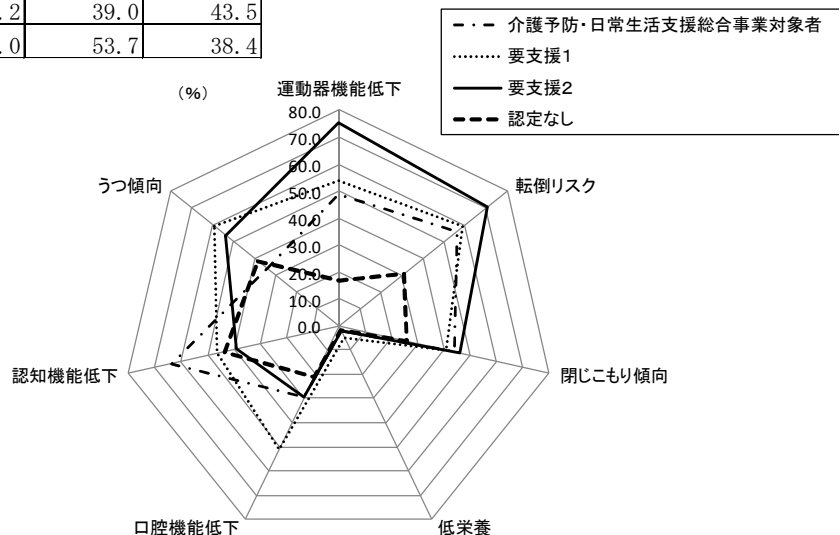
地区別該当者割合

	丹波	瑞穂	和知
運動器機能低下	24.8	26.1	27.4
転倒リスク	37.6	37.4	37.4
閉じこもり傾向	28.0	30.8	31.6
低栄養	1.9	0.9	4.2
口腔機能低下	28.0	25.1	21.6
認知機能低下	46.6	47.9	42.6
うつ傾向	39.5	40.3	39.5



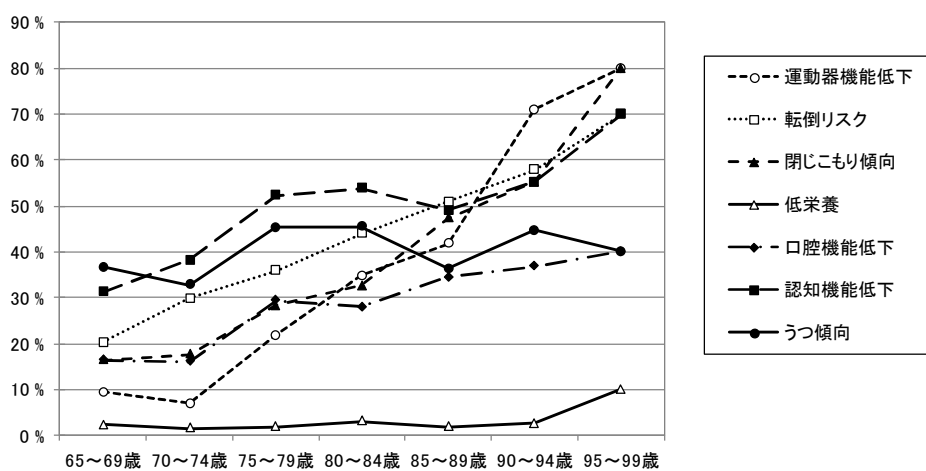
要介護状態区分別該当者割合

	介護予防・日常生活支援総合事業対象者	要支援1	要支援2	認定なし
運動器機能低下	48.8	53.8	75.6	16.8
転倒リスク	56.1	59.0	70.7	31.0
閉じこもり傾向	43.9	41.0	46.3	25.9
低栄養	2.4	5.1	2.4	1.7
口腔機能低下	29.3	51.3	29.3	21.4
認知機能低下	63.4	46.2	39.0	43.5
うつ傾向	34.1	59.0	53.7	38.4



年齢別該当者割合

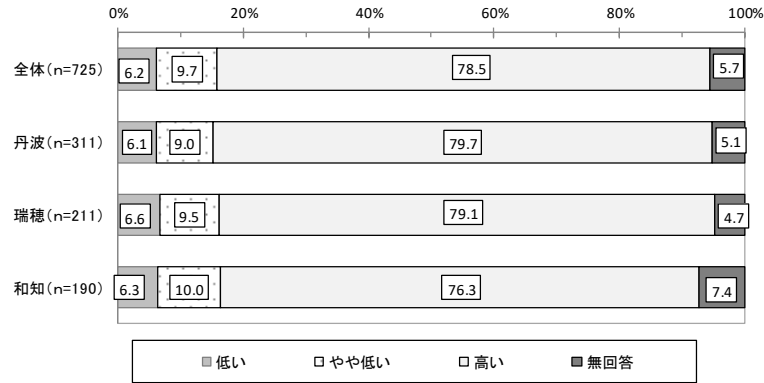
	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳
運動器機能低下	9.4	6.9	21.8	34.8	41.8	71.1	80.0
転倒リスク	20.3	29.8	35.9	43.9	50.9	57.9	70.0
閉じこもり傾向	16.4	17.6	28.2	32.6	47.3	55.3	80.0
低栄養	2.3	1.5	1.8	3.0	1.8	2.6	10.0
口腔機能低下	16.4	16.0	29.4	28.0	34.5	36.8	40.0
認知機能低下	31.3	38.2	52.4	53.8	49.1	55.3	70.0
うつ傾向	36.7	32.8	45.3	45.5	36.4	44.7	40.0



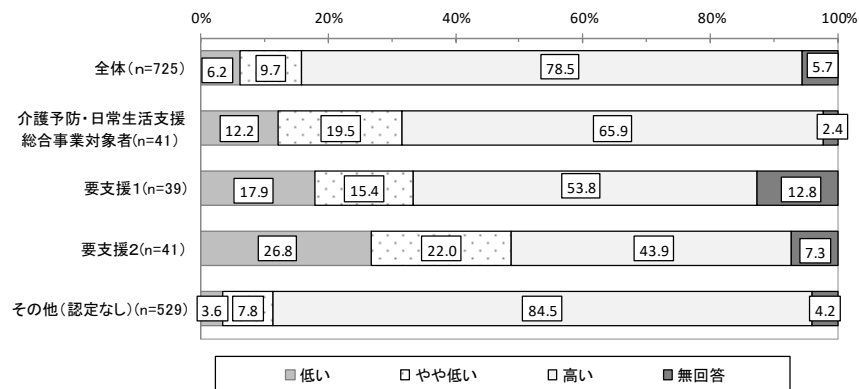
2. 老研式活動能力指標

①手段的自立度（IADL）

○地区別にみると、「低い」「やや低い」を合わせた『低い』は、“和知”の16.3%が最も高く、“丹波”の15.1%が最も低くなっています。

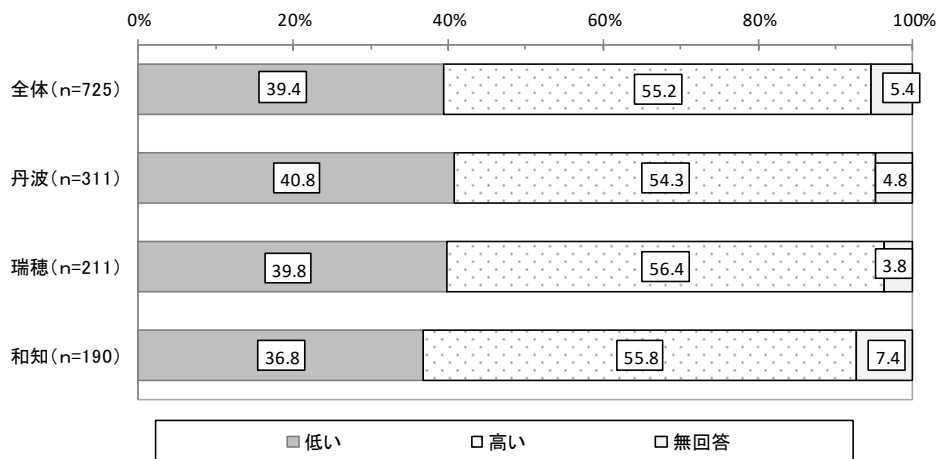


○要介護状態区別にみると、「低い」「やや低い」を合わせた『低い』は、“要支援2”の48.8%が最も高く、“その他（認定なし）”の11.4%が最も低くなっています。

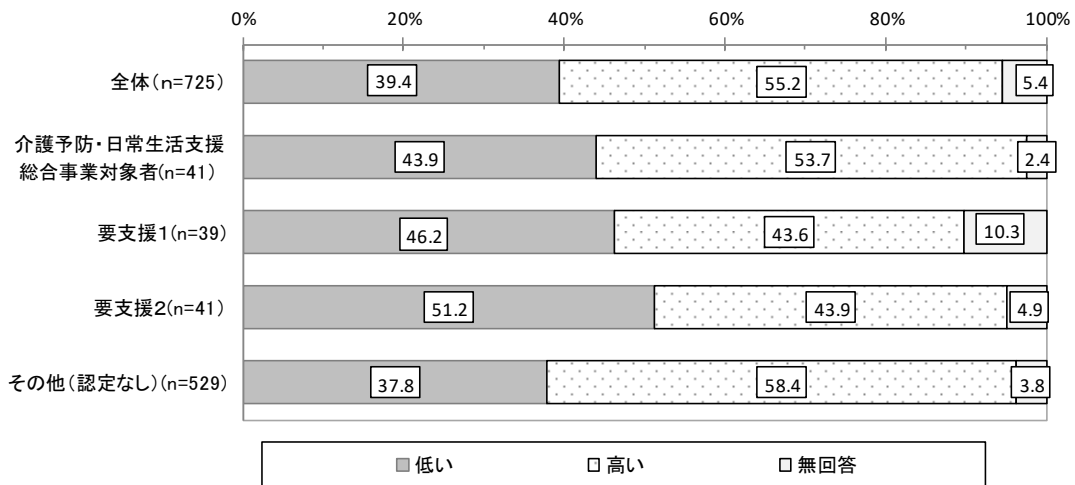


②知的能動性

○地区別にみると、“瑞穂”でやや高く、“丹波”でやや低くなっています。

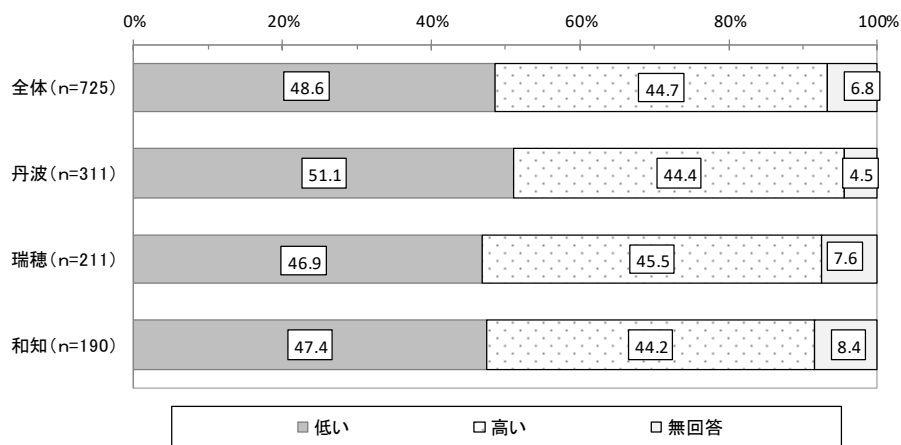


○要介護状態区別にみると、介護度等に合わせた結果がみられます。

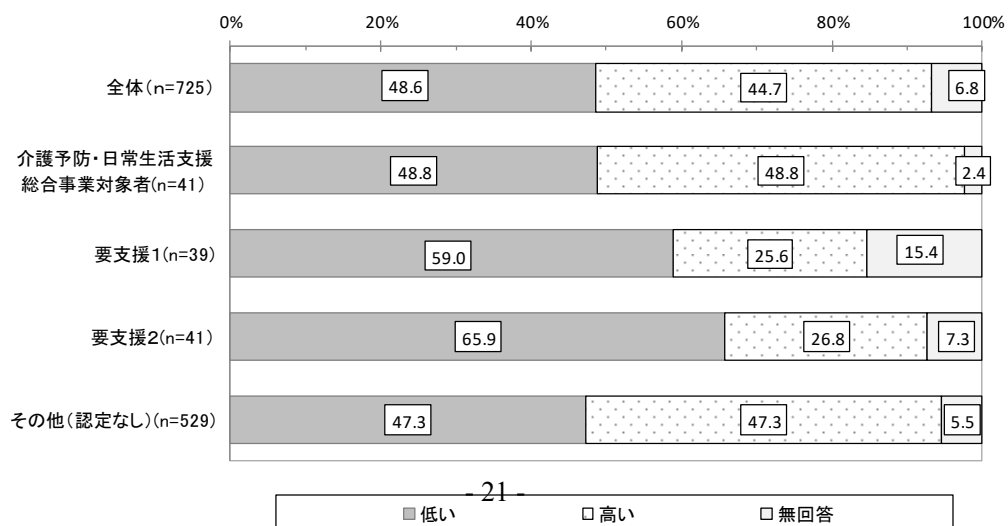


③社会的役割

○地区別に見ると、“丹波”で「低い」の割合が高くなっています。



○要介護状態区別にみると、“その他（認定なし）”が最も高く、“要支援2”が最も低くなっています。



II 在宅介護実態調査

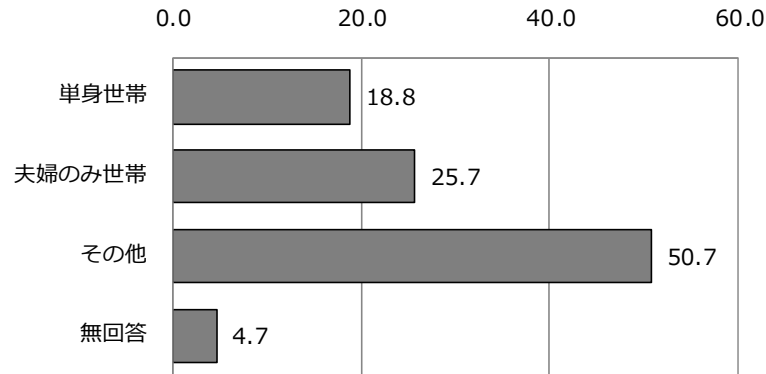
II 在宅介護実態調査

A票. 調査対象者について

Q2. 世帯類型

【SA】

○「その他」が50.7%で最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が25.7%、「単身世帯」が18.8%の順となっています。

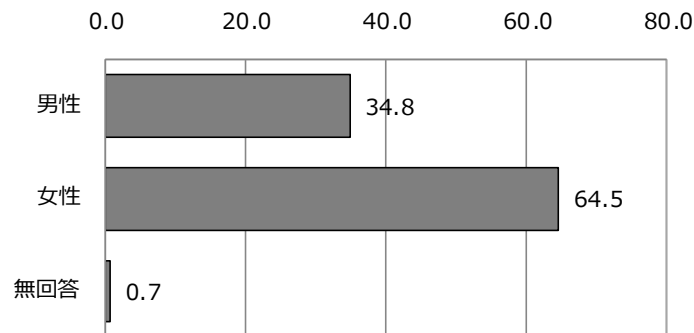


n=276

Q3. 性別

【SA】

○「男性」より「女性」の割合が高くなっています。

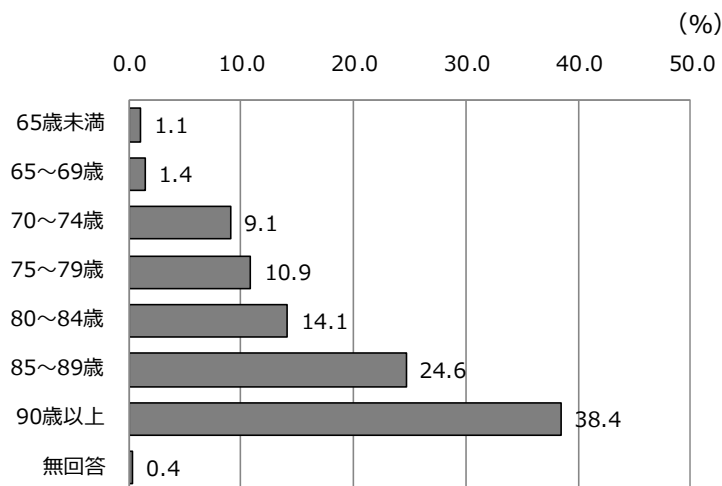


n=276

Q4. 年齢

【SA】

○「90歳以上」が38.4%で最も高く、後期高齢者（75歳以上）が8割以上を占めています。

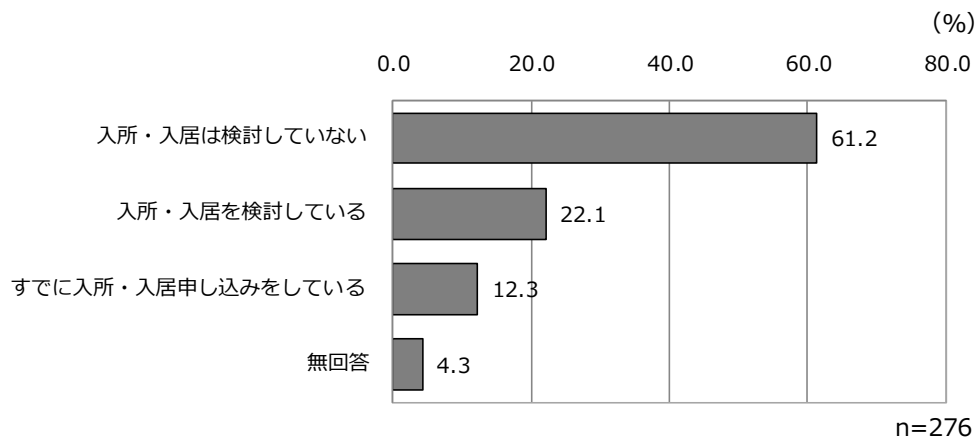


n=276

Q6. 施設等への入所・入居の検討状況

【SA】

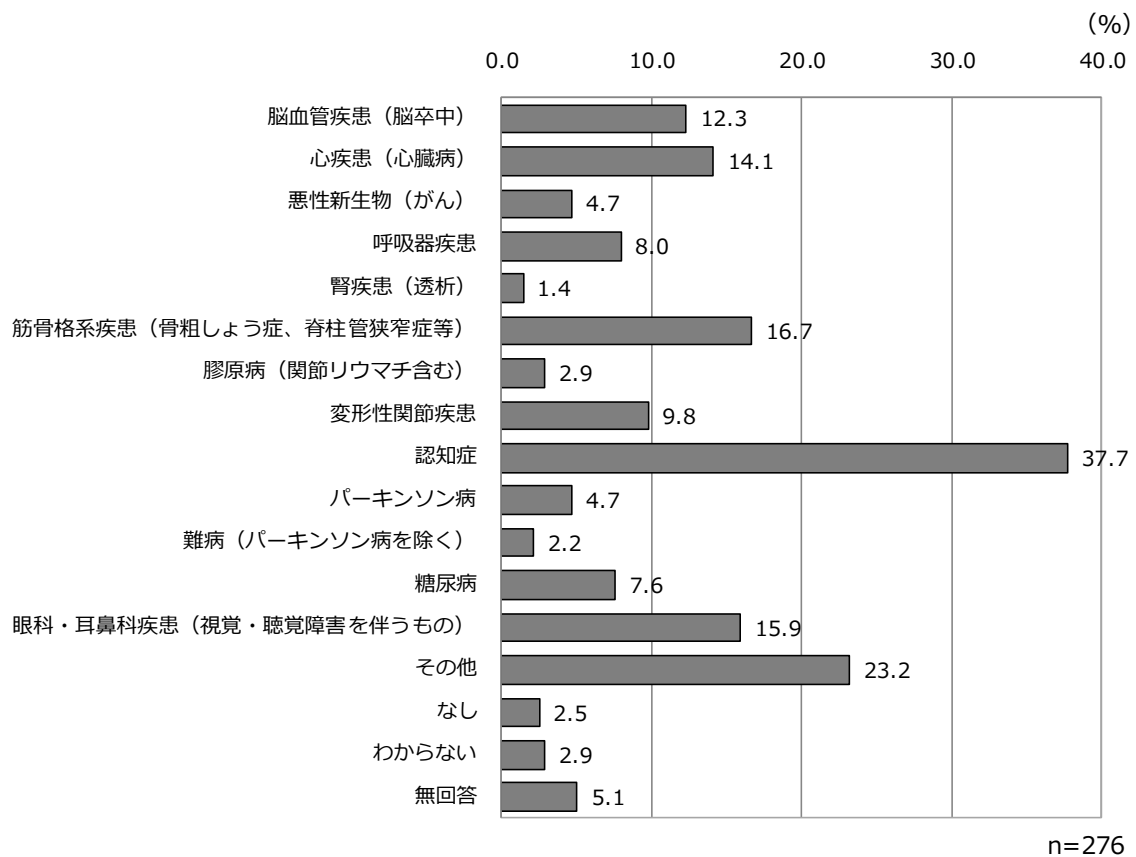
○「入所・入居は検討していない」が61.2%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が22.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が12.3%の順となっています。



Q7. 現在抱えている傷病

【MA】

○「認知症」が37.7%で最も高く、次いで「その他」が23.2%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が16.7%の順となっています。

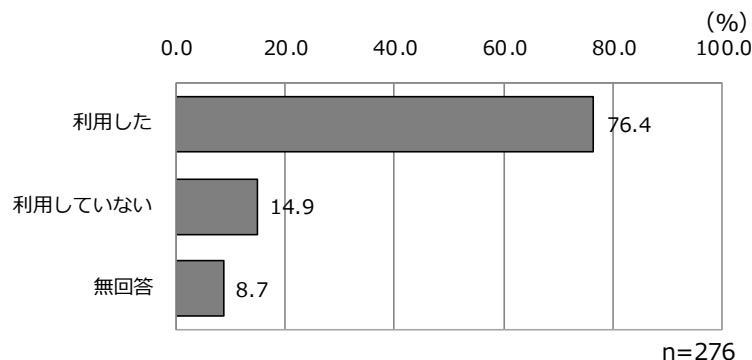


II 在宅介護実態調査

Q8. 令和元年12月の介護保険サービスの利用の有無

【SA】

○「利用した」が76.4%、「利用していない」が14.9%となっています。



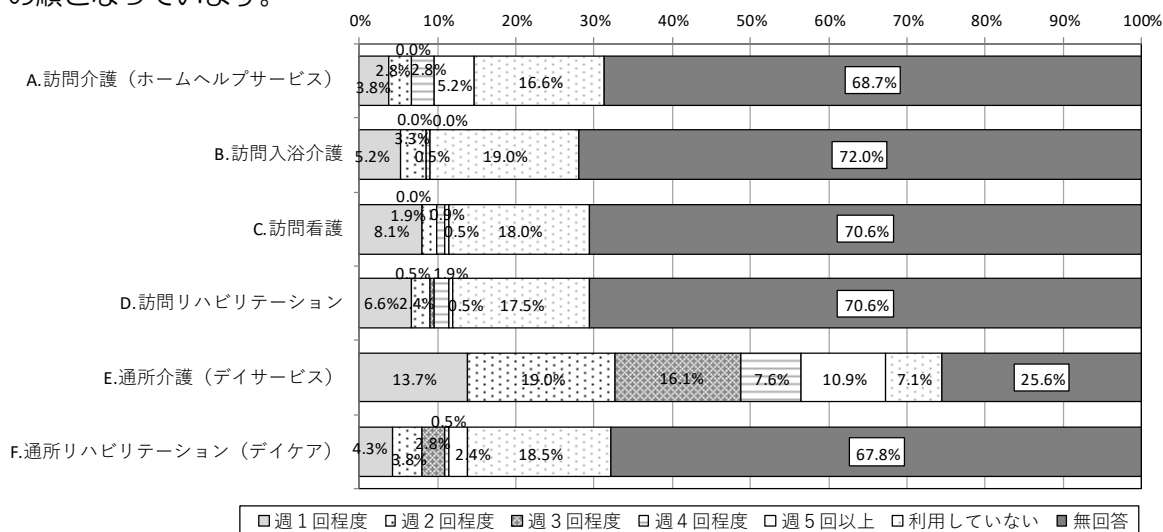
Q9. 令和元年12月の介護保険サービスの利用状況

【SA】

(Q8で「利用した」を選択した方限定)

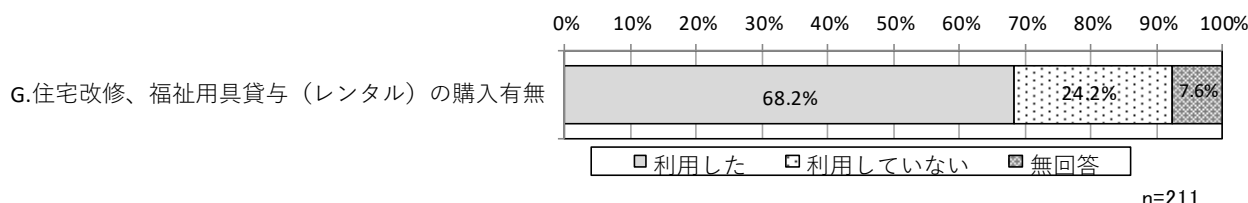
【1週間あたりの利用回数】

○以下の7つのサービスについてみると、「E. 通所介護（デイサービス）」の利用の割合が最も高く、次いで「A. 訪問介護（ホームヘルプサービス）」、「F. 通所リハビリテーション（デイケア）」の順となっています。



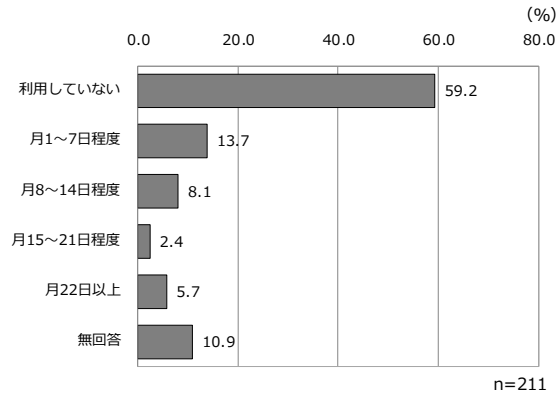
【利用の有無】

○「G.住宅改修、福祉用具貸与（レンタル）の購入有無」についてみると、利用した人は68.2%となっています。



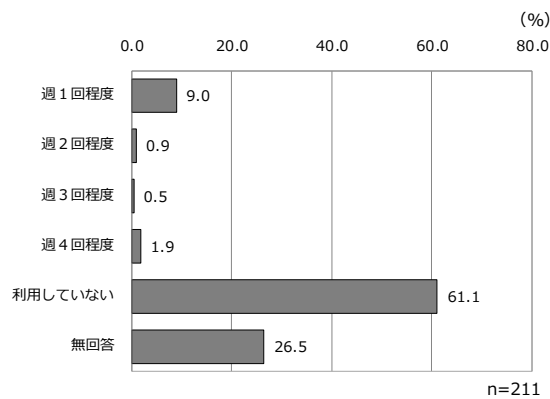
【ショートステイの利用状況】

○「利用していない」が59.2%で最も高く、次いで「月1～7日程度」が13.7%、「月8～14日程度」が8.1%となっています。



【居宅療養管理指導の利用状況】

○「利用していない」が61.1%で最も高く、次いで「月1回程度」が9.0%、「月4回程度」が1.9%となっています。

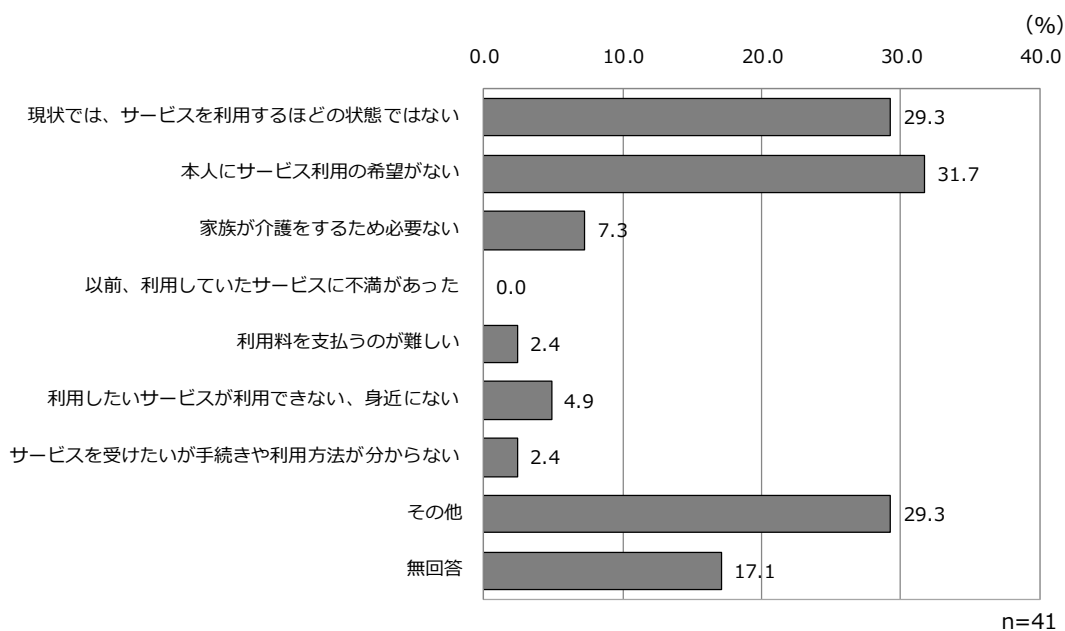


Q10. 介護保険サービスを利用していない理由

【MA】

(Q8で「利用していない」を選択した方限定)

○「本人にサービス利用の希望がない」が31.7%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」と「その他」が29.3%となっています。

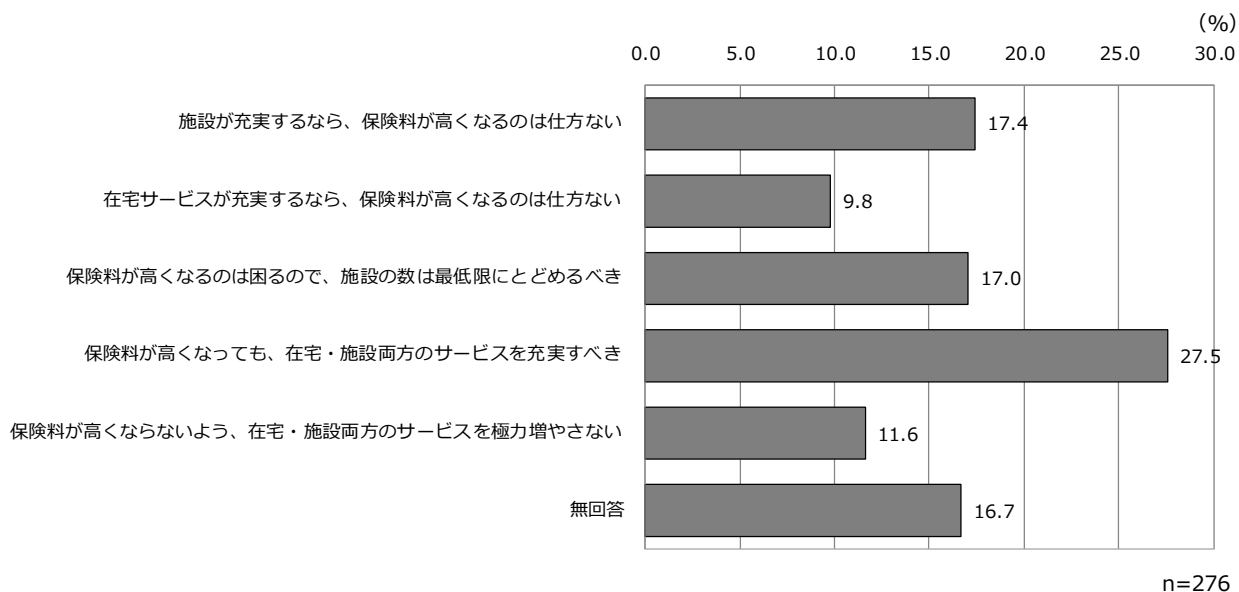


II 在宅介護実態調査

Q11. 介護保険サービスと介護保険料のバランス

【SA】

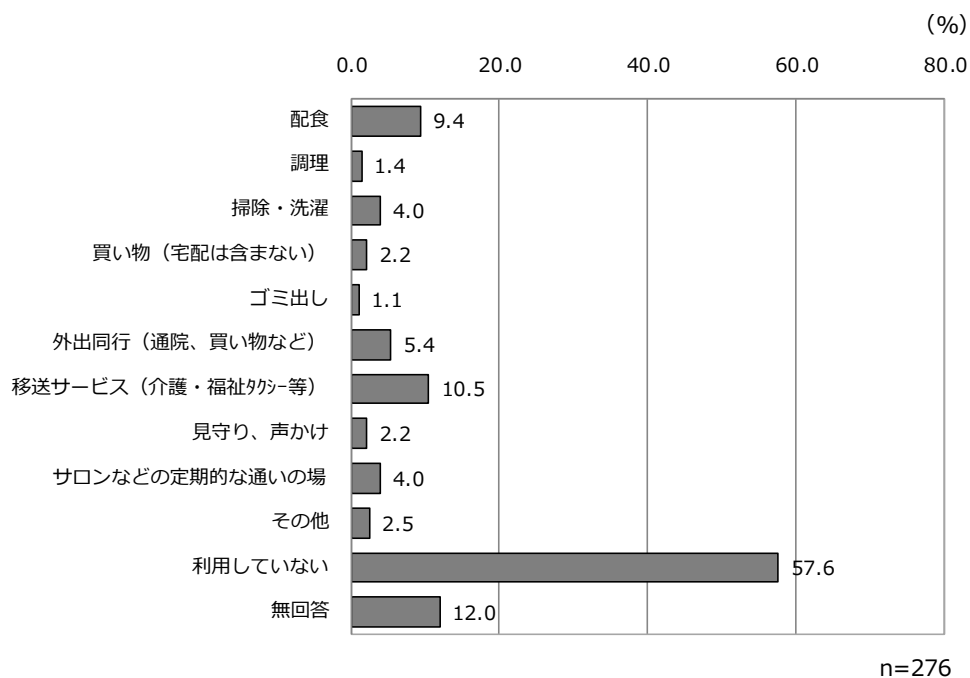
○「保険料が高くなって、在宅・施設両方のサービスを充実すべき」が27.5%で最も高く、次いで「施設が充実するなら、保険料が高くなるのは仕方ない」が17.4%となっています。



Q12. 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

【MA】

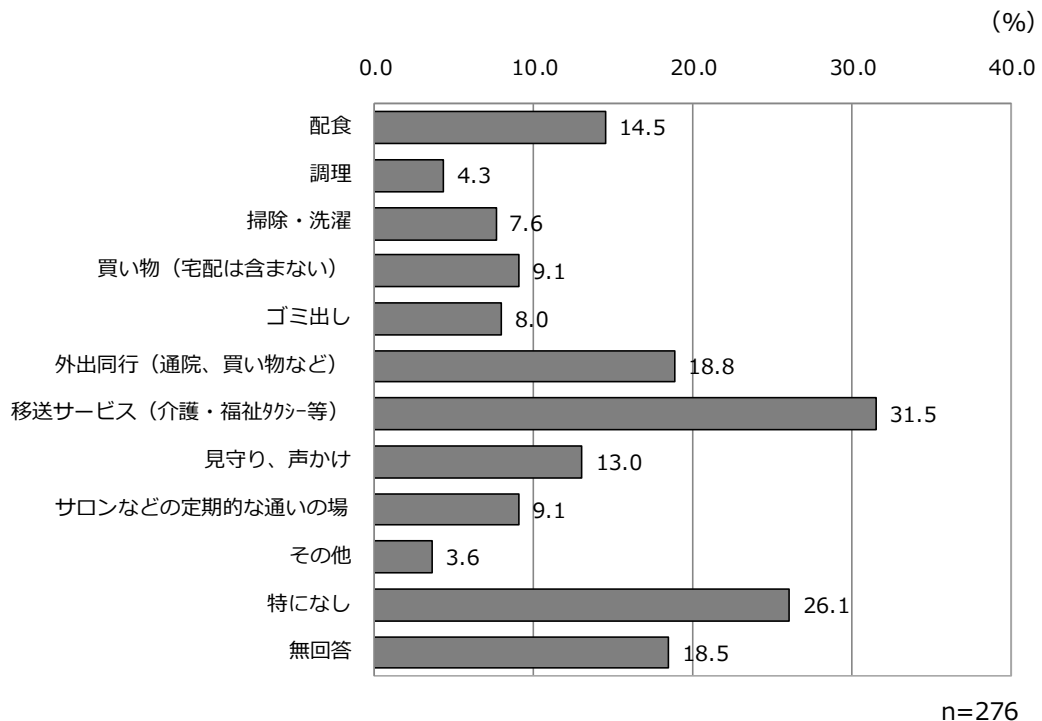
○「利用していない」が57.6%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が10.5%、「配食」が9.4%の順となっています。



Q13. 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

【MA】

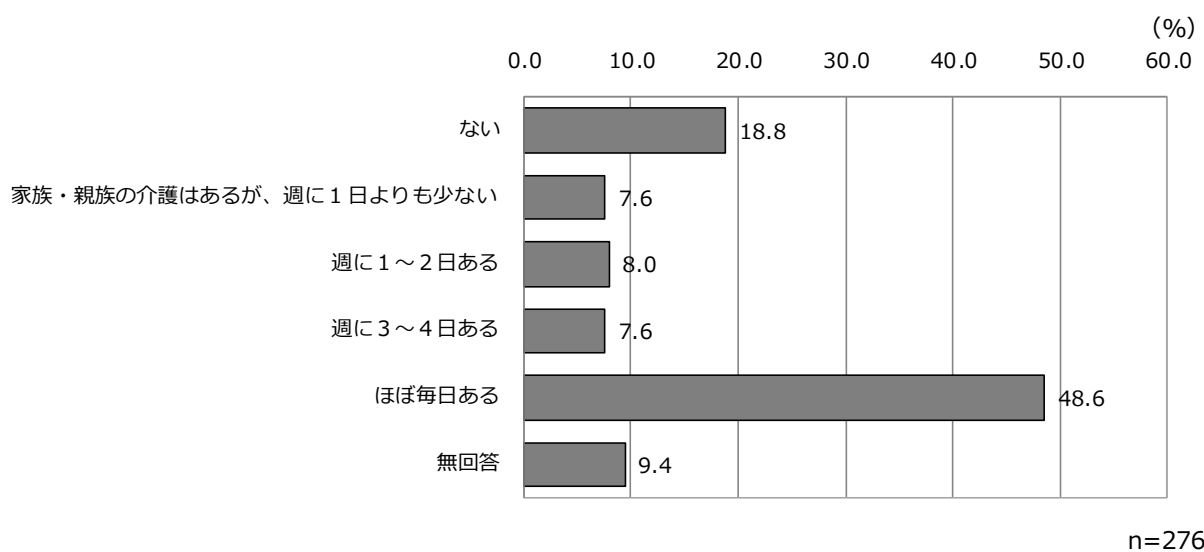
○「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.5%で最も高く、次いで「特になし」が26.1%、「外出同行(通院、買い物など)」が18.8%の順となっています。



Q15. 家族や親族からの介護の状況

【SA】

○「ほぼ毎日ある」が48.6%で最も高く、次いで「ない」が18.8%、「週に1～2日ある」が8.0%の順となっています。



II 在宅介護実態調査

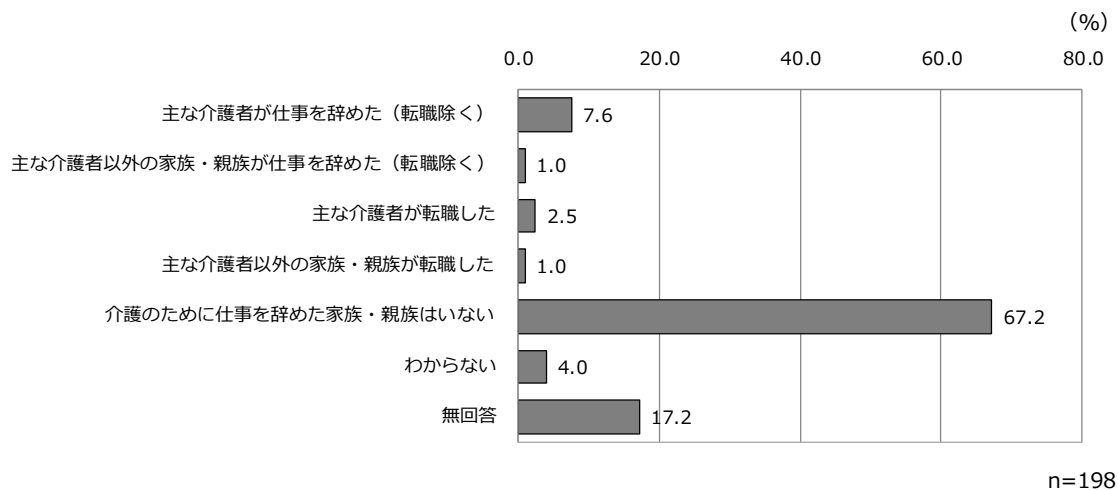
B票. 主な介護者の方について

～以降、A票のQ15で「ない」以外を選択した方限定(自由記述を除く)～

Q1. 介護のため過去1年間に仕事を辞めた方

【MA】

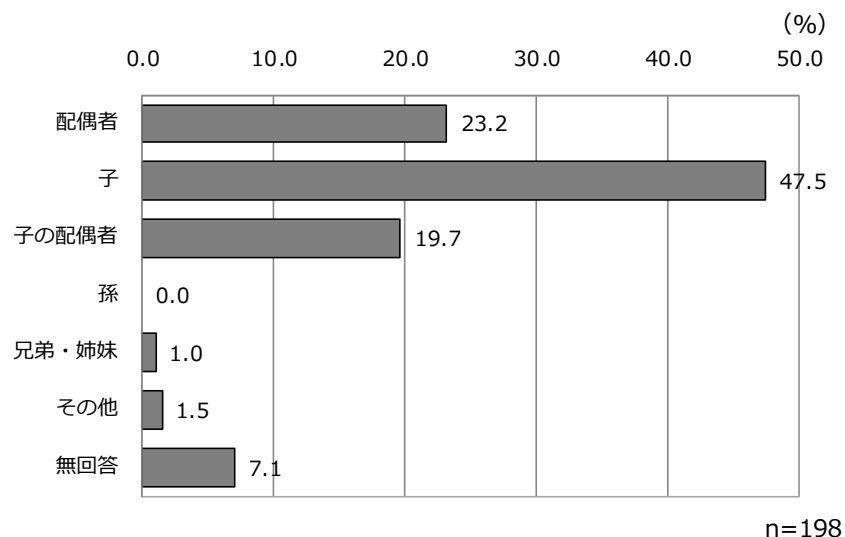
○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が67.2%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.6%、「わからない」が4.0%の順となっています。



Q2. 主な介護者

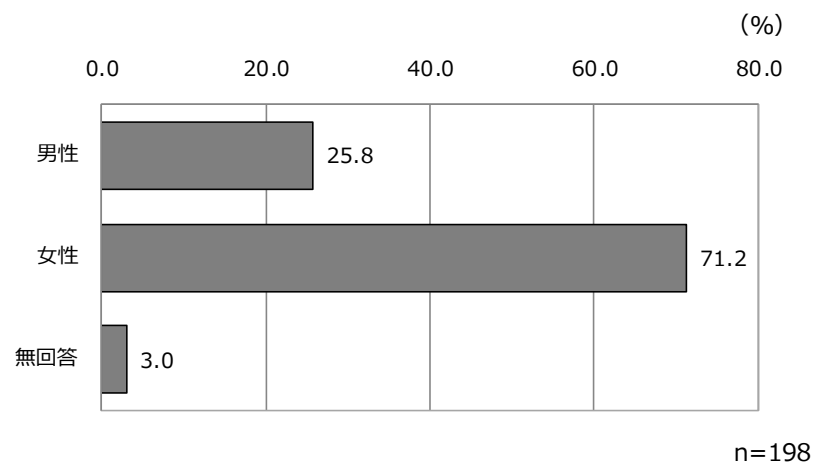
【SA】

○「子」が47.5%で最も高く、次いで「配偶者」が23.2%、「子の配偶者」が19.7%の順となっています。

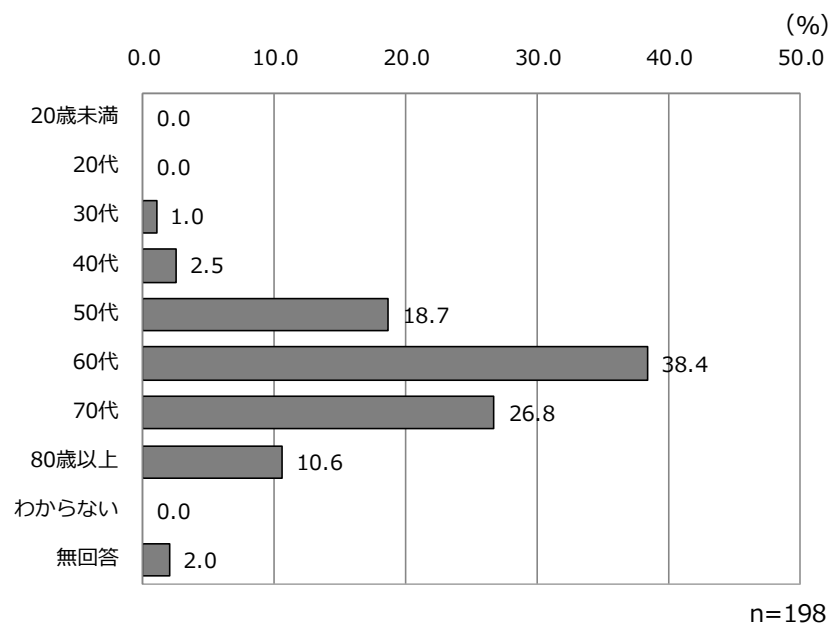


Q3. 主な介護者の性別**【SA】**

○「女性」が71.2%、「男性」が25.8%となっています。

**Q4. 主な介護者の年齢****【SA】**

○「60代」が38.4%で最も高く、次いで「70代」が26.8%、「50代」が18.7%の順となっています。

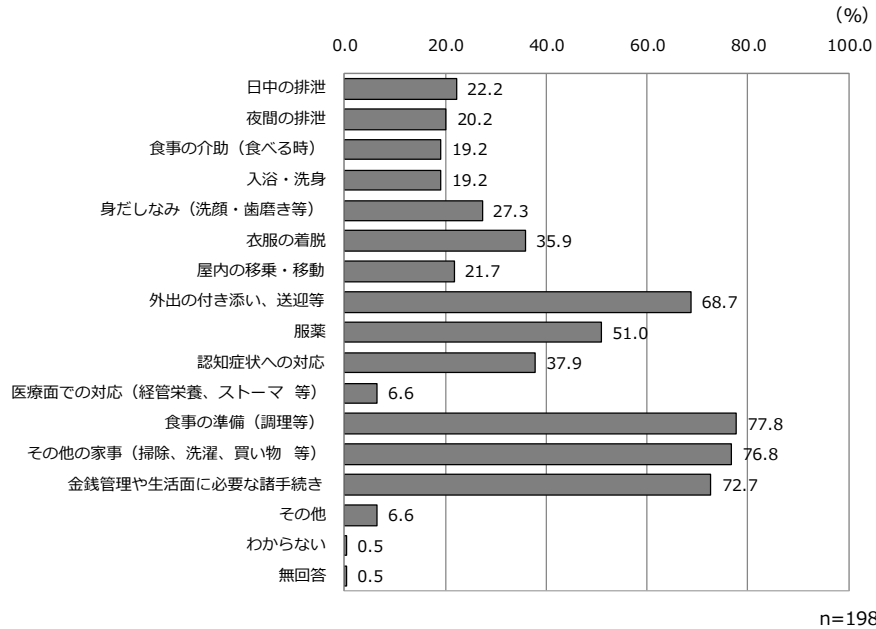


II 在宅介護実態調査

Q5. 主な介護者が行っている介護等

【MA】

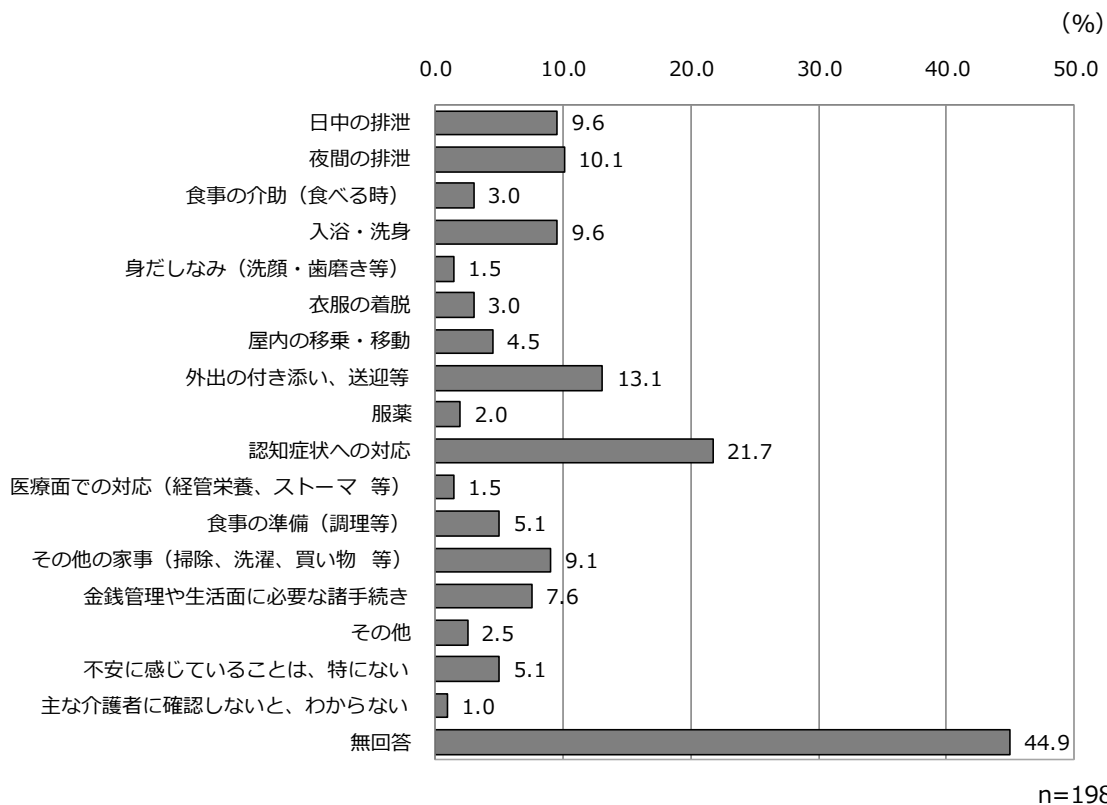
○「食事の準備(調理等)」が77.8%で最も高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」が76.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が72.7%となっています。



Q6. 主な介護者が不安に感じる介護等

【MA】

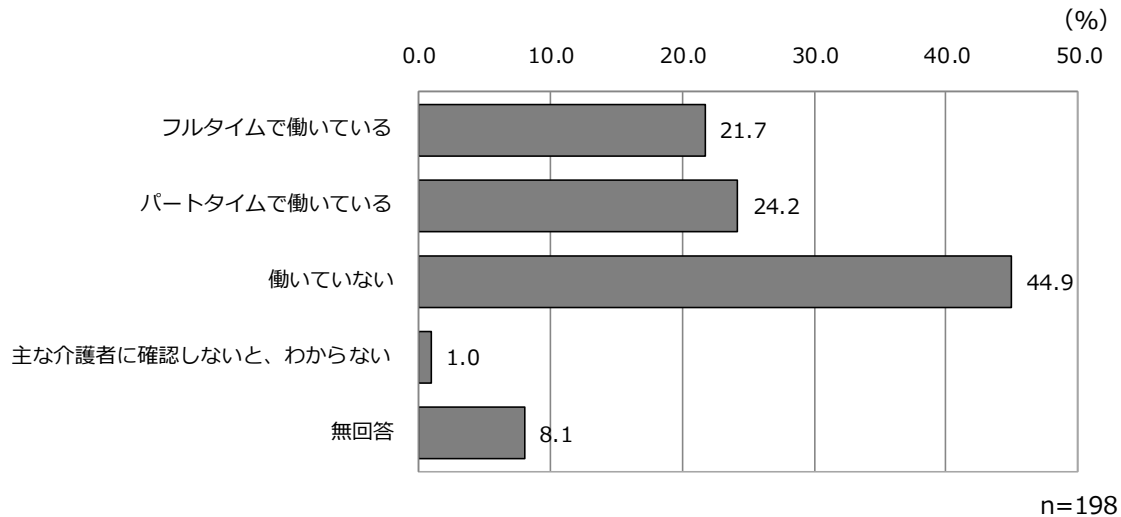
○「認知症状への対応」が21.7%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が13.1%、「夜間の排泄」が10.1%の順となっています。



Q7. 主な介護者の就労状況

【SA】

○「働いていない」が44.9%で最も高く、次いで「パートタイムで働いている」が24.2%、「フルタイムで働いている」が21.7%の順となっています。

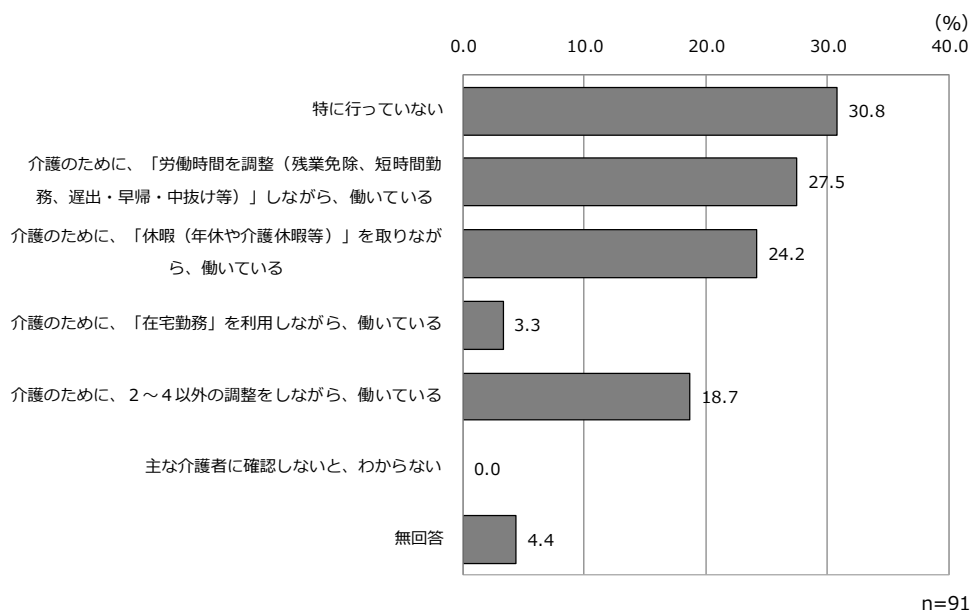


Q8. 介護のための働き方の調整

【MA】

(Q7. で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「特に行っていない」が30.8%で最も高く、次いで「介護のために「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が27.5%、「介護のために「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が24.2%の順となっています。



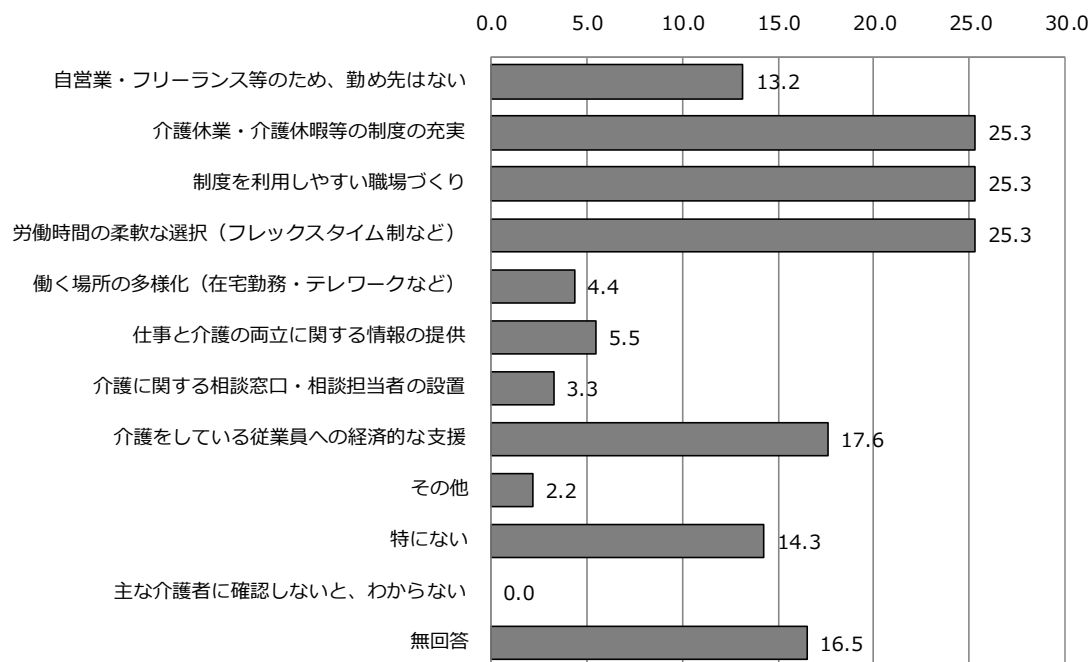
II 在宅介護実態調査

Q9. 仕事と介護の両立のために勤務先からほしい支援

【MA】

(Q7. で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択」がそれぞれ25.3%と最も高くなっており、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が17.6%となっています。(%)



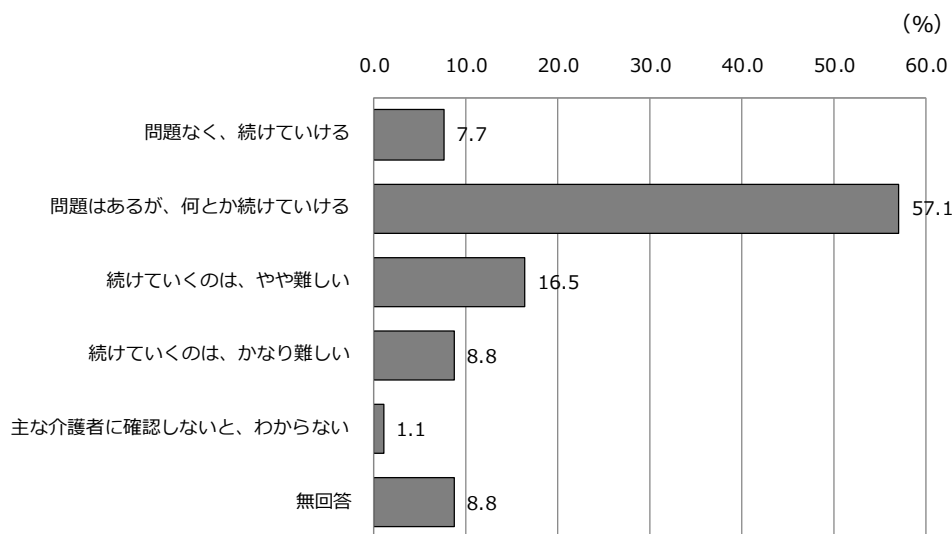
n=91

Q10. 今後の就労継続見込み

【SA】

(Q7. で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた『続けていける』が64.8%、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた『続けていくのは難しい』は25.3%となっています。(%)



n=91